

日本学術振興会海外特別研究員

平成25年度採用分募集要項

1. 趣旨

独立行政法人日本学術振興会（Japan Society for the Promotion of Science:JSPS）は、我が国における学術の将来を担う国際的視野に富む有能な研究者を養成・確保するため、優れた若手研究者を海外に派遣し、特定の大学等研究機関において長期間研究に専念できるよう支援します。

本募集は、我が国の大学等学術研究機関（「4. 申請資格」（1）※1参照）に所属する常勤研究者、又は当該常勤研究者を志望する者を対象とします。

2. 対象分野

人文・社会科学及び自然科学の全分野

3. 採用予定数

約130名

※ 平成25年度予算の状況により変更されます。

4. 申請資格

（1）次に掲げる資格（Ⅰ）（Ⅱ）のいずれかに該当する者であること。

なお、審査においては全て同一に取り扱い、資格毎に審査を行うわけではありません。

資格	（Ⅰ）	（Ⅱ）
身分	我が国の大学等学術研究機関※1 に所属する常勤研究者。	我が国の大学等学術研究機関※1 の常勤研究者を志望する者※2。
年齢	平成25年4月1日現在 ① 34歳未満 ② 医学、歯学又は獣医学を履修する我が国の4年制の博士課程修了者（次の③、④を除く）：35歳未満 ③ 法律（医師法（平成12年の法改正前）、歯科医師法又は獣医師法）に定める臨床研修を修了した者で、医学（次の④を除く）、歯学又は獣医学を履修する我が国の4年制の博士課程修了者：36歳未満 ④ 医師法（平成12年の改正法）により義務付けられた2年以上の臨床研修を修了した者で、医学を履修する我が国の4年制の博士課程修了者：37歳未満	
学位	平成25年4月1日現在、博士の学位を取得している者（申請時においては、見込みでも良い）。 ただし、我が国の人文学又は社会科学の分野の大学院博士課程に標準修業年限以上在学し、平成25年3月31日までに所定の単位を修得の上退学した者で、博士の学位を取得した者に相当する能力を有すると認められる者も含む。 ※資格（Ⅰ）に該当する常勤研究者のうち、任期の定めのない者については学位の有無を問いません。	
国籍	日本国籍を持つ者、又は我が国に永住を許可されている外国人	
その他	<ul style="list-style-type: none"> 日本学術振興会海外特別研究員に採用されたことのある者は申請できません。 資格（Ⅰ）の者のうち、派遣期間中に特定の研究課題を遂行するための競争的資金等により雇用されている者は、採用されません。 	

- ※1 大学等学術研究機関とは以下のとおり。ただし、文部科学省科学研究費補助金の応募資格のない機関を除く。
- a) 大学、大学共同利用機関、短期大学、高等専門学校
 - b) 国公立試験研究機関等
 - c) 学術研究・研究開発活動を行う独立行政法人、特殊法人、政府出資法人、一般財団法人、一般社団法人
 - d) 民間研究機関(大学の連携大学院の相手方として教育研究実績を上げている機関の他、若手研究者養成に適切であると本会が認めた機関)
- ※2 申請時の所属状況は問わない。

(2) 採用時の資格確認

学位取得証明書(我が国の人文学又は社会科学の分野の大学院博士課程に標準修業年限以上在学し、平成25年3月31日までに所定の単位を修得の上退学したことを証明する書類を含む。)を採用内定後、指定の期日までに提出できない場合は、採用されません。(ただし、「4. 申請資格」で(1)に該当する常勤研究者のうち、任期の定めのない者を除きます。)

なお、学位の取得日が平成25年4月2日以降となる場合であっても、平成25年4月1日までに博士の学位を授与することが決定している旨、学位を授与する大学が証明した文書を指定の期日までに提出することにより、学位取得証明書の提出は学位取得証明書が交付されるまで猶予されません。

5. 平成24年度海外特別研究員採用内定者の申請資格

平成25年度採用分については、申請時までに平成24年度採用分の辞退届を提出している(渡航開始日前までに辞退手続きを完了している)場合を除き、申請することができません。

6. 派遣期間

派遣開始日から2年間

<平成25年度採用分>

派遣開始日：平成25年4月1日～平成26年2月28日

7. 派遣先機関

海外の優れた大学等研究機関※3とします。

なお、次に挙げる機関等は派遣先機関として認められません。

- ・我が国の大学等学術研究機関が海外に設置する研究所等
- ・営利を目的とした民間研究所等

※3 大学又は国公立の研究機関以外の場合には、非営利である旨を証明できるその機関の説明書・パンフレット等を申請書類に必ず添付すること

8. 本会支給経費

- (1) 往復航空賃（日本国内の移動分は除く。）
- (2) 滞在費・研究活動費（派遣国によって異なる。年額約380万円～520万円）

9. 申請手続

海外特別研究員の申請は電子申請システムを通じて受け付けます。その際、電子申請手続と併せて必要書類が郵送にて期日までに提出された場合のみ、有効な申請となります。詳細は、本会ホームページ内「電子申請のご案内」（<http://www-shinsei.jsps.go.jp/>）から「研究者養成事業」を参照してください。

申請書の作成にあたっては、必ず「平成25年度採用分海外特別研究員申請書作成要領」（http://www.jsps.go.jp/j-ab/ab_boshu_f.htm）及び電子申請システムの該当の「操作手引」（<http://www-shinsei.jsps.go.jp/topyousei/download-yo.html>）を熟読してください。

(1) 申請手続を行う機関

海外特別研究員の申請は、申請時点（申請書受付期間時点）での所属状況により手続が異なります。「機関申請者」と「個人申請者」のいずれに該当するか、以下により各自確認してから適切な手続を踏んでください。

- ・国内の文部科学省科学研究費補助金の応募資格のある研究機関に所属の者 → 「機関申請者」
- ・国内の文部科学省科学研究費補助金の応募資格のない研究機関に所属の者 → 「個人申請者」
- ・海外の研究機関等に所属の者 → 「個人申請者」
- ・申請時点においては所属のない者 → 「個人申請者」

※本会の特別研究員に採用されている者は、海外特別研究員申請時に海外の大学等研究機関において研究活動を行っている場合であっても、必ず日本国内の所属機関を通じて申請手続を行ってください。（この場合は、「機関申請者」に該当します。）

<機関申請者>

申請手続は、必ず申請時点の所属機関（以下「申請機関」という。）を通じて行ってください。

（機関申請者に該当する者が本会へ直接提出したものは、受け付けません。）

<個人申請者>

申請手続は各自で行い、申請書は直接本会へ提出してください。

(2) 電子申請システムによる手続

機関申請者の場合には予め申請機関を通じて、個人申請者の場合には各自直接、ID・パスワードを取得した上、電子申請システムにより申請書情報を提出（送信）してください。

具体的手続は、本会ホームページ内「電子申請のご案内」（<http://www-shinsei.jsps.go.jp/>）から「研究者養成事業」を参照してください。

(申請手続の概要)

<機関申請者>

- ① 日本学術振興会電子申請システムでは、府省共通研究開発管理システム（以下「e-Rad」という。）の電子証明書を取得する必要がありますので、申請機関担当者は、e-Rad ホームページより「所属研究機関登録申請書」を、郵送にて文部科学省へ送付し、電子証明書を取得してください。（既に取得済みの場合、改めて行っていただく必要はありません。）（申請者の方は、本手順は必要ありません。）
※詳細については、e-Rad ホームページ「システム利用に当たっての事前準備」をご確認ください。
- ② 申請機関担当者は、日本学術振興会電子申請システム利用申請書（研究者養成事業用）を、郵送にて本会へ送付します。（既に研究者養成事業用のID・パスワードを取得済の申請機関は引き続き使用できるので再取得する必要はありません。）
- ③ 本会は、申請機関担当者にID・パスワードを発行し、電子メール及び郵送で送付します。
※既に、特別研究員事業にて申請機関担当者のID・パスワードを取得済の申請機関で、現在登録されている申請機関担当者が海外特別研究員の申請の取りまとめを担当しない場合には、機関担当者メニューから新たに海外特別研究員担当者の登録を行ってください。海外特別研究員担当者には、海外特別研究員事業に限り、申請機関担当者と同等の権限があります。申請の取りまとめを海外特別研究員担当者が行う場合には、以下「申請機関担当者」を「海外特別研究員担当者」と読み替えてください。
- ④ 申請者は、申請機関担当者へ申請者用ID・パスワードの発行依頼を行います。ID・パスワードは、特別研究員事業（PD・DC2・DC1・RPD）と共通して使用することが可能です。（申請機関によっては、既に同機関から発行済のID・パスワード（研究者養成事業用）を引き続き使用することとしている場合があるので、申請機関からの指示に従ってください。）
- ⑤ 申請機関担当者は、申請機関用ID・パスワードで電子申請システムにアクセスし、申請者用ID・パスワードを取得します。
- ⑥ 申請者は、申請機関担当者※から申請者用ID・パスワードを受領します。
- ⑦ 申請者は、本会「海外特別研究員」ホームページ（<http://www.jsps.go.jp/j-ab/index.html>）の「申請手続き」の「募集要項」の「申請書等様式」から「申請内容ファイル」をダウンロードします。（ID・パスワード不要）
- ⑧ 申請者は、受領したID・パスワードで電子申請システムにアクセスし、申請書情報（Web入力項目）に必要なデータを入力します。
（注）⑧～⑭の手続きは、4月初旬に平成25年度採用分の申請書情報入力画面が公開されてからとなります。
- ⑨ 申請者は、入力した申請書情報（Web入力項目）に不備がないか確認し、不備がなければ「完了」操作を行い、申請機関担当者※に申請書情報（Web入力項目）を送信します。
- ⑩ 申請者は、作成した「申請書情報（Web入力項目）」を印刷します。
- ⑪ 申請者は、⑦でダウンロードしたファイルを使って「申請内容ファイル」を作成し、印刷します。
- ⑫ 印刷した⑩と⑪を併せたものが正式な申請書となります。これらに、必要な添付書類を加え、必要部数揃えたものを申請機関担当者※へ提出します。
- ⑬ 申請機関担当者は、申請書情報の内容等に不備がないかを確認します。不備がない場合は申請書情報を承認（「申請リスト」を確定）し、申請書情報を本会に提出（送信）します。
- ⑭ 申請機関担当者は、申請者から提出された申請書について、内容等に不備がないかを確認し、本会へ提出します。

※印を付した申請機関担当者の業務の一部は、機関によっては部局担当者が行う場合もあります。

<個人申請者>

- ① 本会「海外特別研究員」ホームページ（<http://www.jsps.go.jp/j-ab/index.html>）の「申請手続き」の「募集要項」の「申請書等様式」から「申請内容ファイル」をダウンロードします。（ID・パスワード不要）
- ② 電子申請システム（<http://www.shinsei.jsps.go.jp/login.html>）にアクセスし、個人申請用ID・パスワード取得をします。取得時に出力される「個人申請用ID・パスワード取得時登録内容確認書」は、大切に保管しておいてください。
（なお、海外特別研究員個人申請用として取得したID・パスワードは、本年度の海外特別研究員事業にのみ有効であり、翌年度以降の海外特別研究員事業および全ての特別研究員事業（PD・DC2・DC1・RPD）への申請には使用できません。）
（注）②～⑦の手続きは、4月初旬に平成25年度採用分の申請書情報入力画面が公開されてからとなります。
- ③ 取得したID・パスワードで、電子申請システムにアクセスし、申請書情報（Web入力項目）に必要なデータを入力します。
- ④ 入力した申請書情報（Web入力項目）に不備がないか確認し、不備がなければ「完了」操作を行い、申請書情報（Web入力項目）を送信します。
- ⑤ 作成した「申請書情報（Web入力項目）」を印刷します。
- ⑥ ①でダウンロードしたファイルを使って「申請内容ファイル」を作成し、印刷します。
- ⑦ 印刷した⑤と⑥を併せたものが正式な申請書となります。これらに、必要な添付書類を加え、必要部数揃えて本会へ郵送にて提出します。（提出前に、必ず不備の無いように確認してください。）

[注]

- ・個人申請者が、ID・パスワード取得時より所属状況等に変更が生じた場合には、改めてID・パスワードを取得する必要があります。
- ・個人申請者が、申請書情報（Web入力項目）作成において、一度「完了」操作を行ってから、誤りが見つかった場合には、改めてID・パスワードを取得し、再度申請書情報（Web入力項目）を最初から作成しなおす必要があります。

(3) 提出書類

- ① 申請書…………… (A4判両面印刷) 原本1部、(同) 写し6部
電子申請システムを通じて作成した「申請書情報」と所定の様式を用いて作成した「申請内容ファイル」をそれぞれ印刷し併せたものを申請書一式とします。

(ア) 申請書情報 (Web入力項目) (1～4頁)

学歴・研究課題名等を記載したもの。必ず電子申請システムに情報を入力して作成したPDFファイルを印刷したものをういてください。

(イ) 申請内容ファイル (5頁以降)

現在までの研究状況・これからの研究計画・研究業績等を記載したもの。本会ホームページ又は電子申請システムからダウンロードした所定の様式を利用して作成・印刷してください。

② 添付書類

[全申請者が添付するもの]

- (ア) 評価書…………… (A4判両面印刷) 原本1部、(同) 写し6部

(i) 本紙は評価者が原本及び写しを作成し、評価者自らこれらを併せて封筒(角2)に入れ厳封してください。

(ii) 日本語又は英語。本会所定の書式を用いてください。

(iii) 評価者は申請者の研究を良く理解している研究者1名に限ります。

(iv) 申請者は封筒の表に申請者氏名(登録名)と評価者氏名を記入してください。

- (イ) 受入意思確認書…………… 原本1部、(同) 写し6部
本会所定の書式を用いてください。

海外での受入研究者のサイン及び書面を作成した日付を必ず記入してください。

※ 採用内定となった際には、採用手続書類として改めて正式な受入承諾書を提出いただきますので、ご留意ください。(「12. 受入承諾書の提出」を参照)

- (ウ) 海外における受入研究者との研究についての打ち合わせ状況を示す主要な往復文書

…………… 原本1部、(同) 写し6部
英語以外の言語によるものには、日本語訳も添付してください。

[該当する申請者のみ添付するもの]

- (エ) 語学試験結果の証明書…………… 原本1部、(同) 写し6部
申請書4ページ「㊟語学検定試験結果」欄に記入した場合のみ。

証明書が添付出来ない語学検定試験結果は申請書情報に入力することはできません。

- (オ) 外国人登録済証明書…………… 1部
外国人の場合のみ。「4. 申請資格(1)」の「国籍」の項参照。

- (カ) 臨床研修の期間を証明する書類…………… 1部
平成25年4月1日現在、35歳以上37歳未満の者のみ。

- (キ) 海外の受入研究機関に関する説明書・パンフレット等…………… 1部
受入研究機関が、「7. 派遣先機関 ※3」に該当する機関である場合のみ

③ 申請機関において作成する書類

次の(ア)～(イ)については、申請機関において電子申請システムを用いて作成してください。

- (ア) 平成25年度海外特別研究員申請件数一覧 …………… 1部
(イ) 平成25年度海外特別研究員申請リスト …………… 1部

(4) 申請書類の提出方法

申請書類は、機関申請者は申請機関を通じて本会へ提出してください。また、個人申請者は本会へ直接提出してください。

① 申請者から申請機関（個人申請の場合には本会）に提出する方法

申請者は、下記の書類をまとめて、申請機関（個人申請の場合には本会）に提出してください。

- 申請書原本：(3)①(ア)・(イ)、(3)②(イ)・(ウ)・(エ)・(オ)・(カ)・(キ)を1部ずつ重ねて左上をホチキスでとめたもの…………… 1セット
 申請書写し：(3)①(ア)・(イ)及び(3)②(イ)・(ウ)・(エ)を1部ずつ重ねて左上をホチキスでとめたもの…………… 6セット
 (3)②(ア)の評価書（原本及び写し）が厳封されている封筒

② 申請機関から本会に提出する方法

申請機関は、下記の書類をまとめて、申請受付期間内（「10. 本会の申請受付期間」参照）に本会に提出してください。

- (3)③(ア)、(イ)
 申請者から提出のあった書類（①参照）

10. 本会の申請受付期間

平成24年5月9日（水）～ 14日（月）（必着）（土日を除く。）

受付時間：9:30～12:00 及び 13:00～17:00（日本時間）

- ① 上記の受付期間は所属機関長から本会に申請書類が提出される期限であり、申請者が所属機関長に申請書類を提出する期限については、それより前であることが予想されるので、注意してください。
- ② 海外から個人申請する場合、受付期間内に書類が到着するよう余裕をもって送付してください。郵便事情等による申請書類の紛失、遅配等については、本会では責任を負いません。
- ③ 個人申請者の電子申請システムでの入力完了期限は平成24年5月8日（火）17:00（日本時間）ですので注意してください。
- ④ 上記の受付期間は、郵送による申請書一式の到着の期限です。電子申請では完了していても、紙媒体での申請書が期限までに到着しない場合には、受け付けません。

申請書類提出先

〒102-8472 東京都千代田区一番町8番地

独立行政法人 日本学術振興会 研究者養成課 海外特別研究員 募集担当

1.1. 選考及び結果の開示

(1) 選考

選考は、本会の特別研究員等審査会において第1次選考（書類選考）及び第2次選考（面接選考）により行います。ただし、第1次選考（書類選考）合格者のうち、書類選考の結果によっては、第2次選考（面接選考）を免除し、第1次選考をもって採用内定とする場合があります。

第2次選考（面接選考）は、第1次選考（書類選考）合格者のうち、面接選考を要する者について平成24年9月下旬ごろに行います。（面接日程は、決定次第、本会ホームページに掲載予定）

主要な審査方針は、以下のとおりです。（審査の詳細については、本会「海外特別研究員」ホームページ（<http://www.jsps.go.jp/j-ab/index.html>）上の「選考方法」の項目を参照してください。）

[審査方針]

- ① 海外での研究経験を通じて、学術の将来を担う優れた研究者となることが十分期待できること。
- ② 申請者が海外の研究機関で研究活動を行うことにより、研究環境を変えて、新たな研究課題に挑戦することを目指す研究計画や、派遣前に行っている研究を大きく発展させることが期待できる研究計画を有するものについて優先させること。
- ③ 研究計画が具体的であり、申請者と海外における受入研究者との事前交渉等が十分になされていること。海外で研究活動を行うにあたり、相応の語学能力(英語であれば、TOEFL(Computer-based)213点、TOEIC730点、英検準1級のいずれか程度)を有することが望ましい。

※所属機関内で承認手続き等が必要な研究計画について

研究計画を遂行するに当たって、相手方の同意・協力を必要とする研究、個人情報取り扱いの配慮を必要とする研究、生命倫理・安全対策に対する取組を必要とする研究など法令等に基づく手続きが必要な研究が含まれている場合に、どのような対策や措置を講じるのかについても審査の対象となります。例えば、個人情報を伴うアンケート調査・インタビュー調査、国内外の文化遺産の調査等、提供を受けた試料の使用、ヒト遺伝子解析研究、遺伝子組換え実験、動物実験など、研究機関内外の情報委員会や倫理委員会等における承認手続きが必要となる調査・研究・実験などが対象となります。

(2) 選考結果の開示

- ① 第1次選考（書類選考）の結果は、平成24年8月中旬ごろに電子申請システムにより開示します。

第1次選考（書類選考）の不合格者には、特別研究員等審査会における各審査項目の評価及び当該領域におけるおおよその順位についても開示します。

- ② 第2次選考（面接選考）の結果（採用内定・補欠・不合格）は、平成24年10月末ごろまでに電子申請システムにより開示します。
- ③ 機関申請者については、10月末ごろまでに申請機関の長にも第1次および第2次選考の結果を併せて電子申請システムにより開示します。
- ④ 各結果を開示した際には、「海外特別研究員」のホームページ（<http://www.jsps.go.jp/j-ab/index.html>）にて、その旨を公表します。

※ 選考に関する個別の問い合わせには、応じません。

1 2. 受入承諾書の提出

採用内定を通知された者は、派遣期間開始日の40日前までに受入研究者の受入承諾書（海外の受入研究者が、受入を正式に承諾している旨の証明書）、及び必要書類を提出してください。提出期限までに必要書類を提出しない場合には、採用されません。

1 3. 海外特別研究員の義務・遵守事項等

海外特別研究員は、次に掲げる事項を遵守してください。

- (1) 海外特別研究員は、出産・育児に係る採用中断の扱いを受ける場合を除き、研究計画に基づいて研究に専念しなければなりません。なお、研究計画、派遣先機関、受入研究者、派遣期間については原則として変更することはできません。研究遂行上の理由によりやむを得ずこれらを変更する必要がある場合、その理由を示して本会の承認を求めなければなりません。
- (2) 派遣開始1年後（出産・育児に係る採用中断期間中を除く）に中間研究報告書を、派遣期間終了後1か月以内に最終研究報告書を提出しなければなりません。
- (3) 派遣期間中、他のフェローシップ、給与等同種の資金援助を海外特別研究員と重複して受けてはなりません（ただし、「4. 申請資格（1）」で（I）に該当する者が我が国の所属研究機関から給与を受ける場合は例外的に認められます）。派遣期間中に他の資金援助を受けることとなった場合には、速やかに本会に連絡してください。
- (4) 資格（II）の者については、原則として、他の身分を持つことはできません。
ただし、受入研究機関の研究施設を利用する上で必要となるなどの理由で形式的（無報酬かつ義務を生じない等。）な身分を得ることは、例外的に認められます。
- (5) 研究活動における不正行為を行ってはいけません。
- (6) 不正受給を行ってはいけません。
- (7) 研究費の不正使用を行ってはいけません。
- (8) 派遣期間中、大学・大学院等に学生として入学してはいけません。
- (9) その他、公序良俗に反する行為を行ってはいけません。

上記の義務・遵守事項等の他、次に掲げる事項のいずれかに該当すると本会が判断した場合にも、海外特別研究員の採用の取り消し、経費の支給停止、又は支給済の経費の返還要求を行います。なお、採用時に誓約書の提出を求めます。詳細は、採用手続き時に配布する「遵守事項および諸手続の手引」に定めます。

- (1) 病気等のために研究を継続できないことが明らかな場合
- (2) 研究の進捗状況に著しい問題があり、所期の目標を達成することが不可能又は著しく困難と判断される場合
- (3) 申請書類の記載事項に重大な虚偽が発見された場合
- (4) 海外特別研究員の資格を有していないことが明らかになった場合
- (5) 過去に、研究活動における不正行為、不正受給、研究費の不正使用、又は公序良俗に反する行為を行ったことが明らかになった場合
- (6) 「遵守事項および諸手続の手引」に記載されている条件に違反し、本会の指示に従わなかった場合

14. その他

(1) 申請書類及び選考について

- ① 申請書類は、本会所定の様式を使用してください。様式は、枠の拡大縮小・省略等の加工及び変更、所定様式以外の用紙の追加、指定書類以外の添付は認められません。
- ② 申請書類の提出後、その記載事項を変更し、又は補充することは認められません。
また、電子申請システムを通じて本会に登録された申請書の最終的な電子情報と、提出された申請書の内容が異なる場合、当該申請は無効となります。
- ③ 申請は1人1件とします。なお、2件以上申請した場合、全ての申請が無効となります。
- ④ 提出された申請書類は返却しません。
- ⑤ 本会は、第2次選考（面接選考）のための旅費は負担しません。
- ⑥ 申請書類に重大な虚偽が発見された場合は、採用後であっても採用を取り消すことがあります。
- ⑦ 審査結果は本年度採用分にのみ有効です。

(2) 採用内定後の資格の変更について

申請時において、「4. 申請資格」で（Ⅰ）に該当する者が、採用内定後、又は派遣期間中に（Ⅱ）に変更する場合には、（Ⅱ）の資格要件を全て満たさなくてはなりません。また、申請時に（Ⅱ）に該当する者が、採用内定後、又は派遣期間中に我が国の大学等学術研究機関の常勤研究者の職に就き、かつ就職先の研究機関の承認を得られた場合、資格（Ⅰ）への変更を届け出ることで、引き続き海外特別研究員としての派遣が認められます。なお、派遣期間中に、我が国の大学等学術研究機関における常勤研究者以外の職、又は海外の研究機関の職に就いた場合は、海外特別研究員としての身分を喪失します。これらの変更が生じた場合には、本会に遅滞なく届け出なくてはなりません。

(3) ビザ等について

- ① 派遣国に滞在するためのビザ等の申請について、本会は一切関わらないので留意してください。すでに海外に滞在している者は、ビザの延長や切り替えに十分注意し、申請者の責任において、研究計画が遂行できるよう準備・手配してください。
- ② 派遣先機関と雇用契約を結び当該機関から給与の支給を受ける前提でビザを取得する者は、採用されませんので、留意してください。
- ③ 海外特別研究員事業のために派遣先機関と本会は協定等の締結および調整等を行いません。
- ④ 本会は、派遣期間中に生じた傷害、疾病等の事故について責任を負いません。

(4) 関連情報について

過去数年の申請状況、申請書様式等を本会「海外特別研究員」のホームページで公開しています。

<http://www.jsps.go.jp/j-ab/index.html>

15. 個人情報の取扱い

申請書類に含まれる個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び本会の「個人情報保護規程」に基づき厳重に管理し、日本学術振興会の業務遂行のみに利用（データの電算処理及び管理を外部の民間企業等に委託して行わせるための個人情報の提供を含む）します。

なお、海外特別研究員に採用された場合、氏名、申請時における所属・職、申請領域・分科・細目、研究課題名、派遣国名、受入研究機関名及び研究報告書が公表されます。

16. 採用終了後の調査への協力義務

我が国の学術の振興や海外特別研究員制度の充実等を図るため、海外特別研究員採用経験者に対し、採用終了時およびその後の10年間程度まで、就職等の現況調査等を行っています。本調査への協力を海外特別研究員採用の条件とするので、ご承知ください。

なお、本調査実施にあたり、調査書類送付時に使用する最新の連絡先を把握する必要があるため、採用終了後に連絡先の住所・就職先等が変更になった場合は速やかに本会に届け出てください。

17. 本募集に関する連絡先

独立行政法人 日本学術振興会 研究者養成課 海外特別研究員募集担当

電話 (03)3263-5070 (ダイヤルイン)

受付時間：月曜～金曜日（祝日を除く。）9：30～12：00 及び 13：00～17：00（日本時間）

募集要項、申請書（申請内容ファイル）、申請作成要領等は、本会「海外特別研究員」のホームページ（<http://www.jsps.go.jp/j-pd/index.html>）の「申請手続き」の「募集要項」よりダウンロードしてください。

なお、申請書のうち、10.(3)①(ア)の「申請書情報」は、必ず電子申請システムを利用して作成してください。

特別研究員-RPD（出産・育児による研究中断者への復帰支援フェローシップ）及び特別研究員-PDの平成25年度採用分も募集しています。特別研究員-RPDと特別研究員-PDは海外特別研究員との併願も可能です。特別研究員-PDは申請受付期間が、本募集要項と異なり6月上旬ですので、ご注意ください。詳細は、特別研究員-RPD及び特別研究員-PDの募集要項又は、本会ホームページをご参照ください。

申請書1～4ページの「申請書情報」は、「電子申請システム」より印刷してください。

No. (申請書情報)

平成25年度採用分
海外特別研究員
申請書

第 版

①審査領域		受付番号
②分科		
③細目		⑤専門分野
④分科・細目 コード		○○○○○○学

○○大学

1. 申請資格等

(所属機関コード:)

⑥氏名	(フリガナ) 登録名		⑦性別
	(フリガナ) 戸籍名		
	ローマ字 表記		
⑧国籍			
⑨生年月日	(西暦) 年 月 日生 (西暦2013年4月1日現在 歳)		

⑩大学院 博士課程 (出身または在学)	入学年月	平成 年 月 入・進学	
	大学名		
	研究科名		
	課程種別		
	修了・退学等		
	学位	(西暦) 年 月 日	
	学位付記 専攻分野		

⑪学歴 (学部、 修士、博士)			
--------------------	--	--	--

⑫研究・職歴等			
---------	--	--	--

⑬現在の 所属機関	所属機関名		
	部局名	部局 種別	
	職名	任期の有無	

⑭申請資格	
⑮海外特別研究員 終了後の進路	

⑩奨学金・フェローシップの有無	名称：
⑪研究課題名	(和文)
	(英文)
⑫派遣を希望する期間	
⑬派遣国	
⑭海外における受入の大学等研究機関での身分	
⑮平成 25 年度採用分特別研究員との併願	

⑯現住所	〒
	国名： 電話番号： 携帯電話番号： FAX 番号： Email 1： Email 2：
⑰所属機関 (所在地・機関名・部局等名)	〒
	国名： 電話番号： (内線) FAX 番号： Email：
⑱希望連絡先	〒
	国名： 電話番号： (内線) 携帯電話番号： FAX 番号： Email 1： Email 2：

㉔現在の 受入研究者	(フリガナ) 氏 名 (ローマ字)			
	科研費 研究者番号			
	所属機関名			
	部 局 名		部局 種別	
	職 名			
㉕大学院での受 入研究者	(フリガナ) 氏 名			
	所属機関名			
	職 名			
㉖海外における 受入研究者	氏 名	(FAMILY NAME) (First Name) (Middle Name) (英文)		
		(漢字等)		
	職	(英文)		
		(和文)		
	受入機関名	(英文)		
		(和文)		
	受入部局名	(英文)		
	(和文)			
連 絡 先	電話番号： FAX 番号： Email：	(内線)		
㉗評価書作成者	(フリガナ) 氏 名			
	所属機関名			
	部 局 名		部局 種別	
	職 名			

⑳ 研究活動における主な使用言語					
㉑ 語学検定試験結果	言語：	試験名称：			
	級／スコア：	取得年月日：			
	言語：	試験名称：			
	級／スコア：	取得年月日：			
㉒ 自己評価	言語	読解力	作文力	ヒアリング力	会話力

㉓ 海外における研究・留学歴	訪問先： 目的：				
	期間：(西暦)	年	月	日	～ 年 月 日
	訪問先： 目的：				
	期間：(西暦)	年	月	日	～ 年 月 日
㉓ 海外における研究・留学歴	訪問先： 目的：				
	期間：(西暦)	年	月	日	～ 年 月 日

㉔ 海外特別研究員制度における支援の必要性					
-----------------------	--	--	--	--	--

2. 現在までの研究状況 (図表を含めてもよいので、わかりやすく記述してください。様式の改変・追加は不可(以下同様))

- ①これまでの研究の背景、問題点、解決方策、研究目的、研究方法、特色と独創的な点について当該分野の重要文献を挙げて記述してください。
- ②申請者のこれまでの研究経過及び得られた結果について整理し、①で記載したことと関連づけて説明してください。「4. 研究業績」欄に記載した論文、学会発表等を引用する場合には、同欄の番号を記載するとともに、申請者が担当した部分を明らかにして記述してください。

(現在までの研究状況の続き)

申請者登録名

3. 派遣先における研究計画

(1) 研究目的・内容 (図表を含めてもよいので、わかりやすく記述してください)

①研究目的、研究方法、研究内容について記述してください。

②どのような計画で、何を、どこまで明らかにしようとするのかを、年次毎に（1年目、2年目）分けて具体的に記入してください。

③なお共同研究の場合には、申請者が担当する部分を明らかにしてください。

(研究目的・内容の続き)

(2) 研究の特色・独創的な点

次の項目について記載してください。

- ①これまでの先行研究等があれば、それらと比較して、本研究の特色、着眼点、独創的な点
- ②国内外の関連する研究の中での当該研究の位置づけ、意義
- ③本研究が完成したとき予想されるインパクト及び将来の見通し

(3) 外国で研究することの意義（派遣先機関・指導者の選定理由）

①申請者のこれまでの研究と派遣先機関（指導者）の研究との関連性について記述してください

②国内外の他研究機関（研究者）と派遣先機関（指導者）とを比較し、派遣先で研究する必要性や意義について明らかにしてください。
（フィールドワーク・調査研究を行う場合、派遣先地域で研究する必要性や意義を中心に述べても構いません。）

(5) 人権の保護及び法令等の遵守への対応

本欄には、研究計画を遂行するに当たって、相手方の同意・協力を必要とする研究、個人情報の取り扱いの配慮を必要とする研究、生命倫理・安全対策に対する取組を必要とする研究など法令等に基づく手続きが必要な研究が含まれている場合に、どのような対策や措置を講じるのか記述してください。例えば、個人情報を伴うアンケート調査・インタビュー調査、国内外の文化遺産の調査等、提供を受けた試料の使用、ヒト遺伝子解析研究、遺伝子組換え実験、動物実験など、研究機関内外の情報委員会や倫理委員会等における承認手続きが必要となる調査・研究・実験などが対象となります。

なお、該当しない場合には、「該当しない」と記載してください。

4. 研究業績（下記の項目について申請者が**中心的な役割を果たしたもののみ**項目に区分して記載してください。その際、通し番号を付すこととし、該当がない項目は「なし」と記載してください。申請者にアンダーラインを付してください）業績が多くて記載しきれない場合には、主要なものを抜粋し、各項目の最後に「他〇報」等と記載してください。）

(1) **学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文、著書**（査読の有無を区分して記載してください。査読がある場合、印刷済及び採録決定済のものに限り、**査読中・投稿中のものは除きます**）

①著者（申請者を含む全員の氏名を、論文と同一の順番とします）、題名、掲載誌名、発行所、巻号、pp 開始頁－最終頁、発行年をこの順で記入し、なお、著者の所属・職については脚注に記載してください。

②採録決定済のものについては、それを証明できるものをP. 12の後に添付してください。

(2) **学術雑誌等又は商業誌における解説、総説**

(3) **国際会議における発表**（口頭・ポスターの別、査読の有無を区分して記載してください）

著者（申請者を含む全員の氏名を、論文等と同一の順番で記載すること）、題名、発表した学会名、論文等の番号、場所、月・年を記載してください。発表者に〇印を付すこと。（発表予定のものは除きます。ただし、発表申し込みが受理されたものは記載してもかまいません。その場合は、それを証明できるものをP. 12の後に添付してください。）

(4) **国内学会・シンポジウム等における発表**

(3)と同様に記載してください。発表申し込みが受理されたものを記載する場合は、(3)と同様に証明できるものを添付してください。

(5) **特許**（申請中、公開中、取得を明記してください。ただし、申請中のもので詳細を記述できない場合は概要のみの記述で構いません。）

(6) **その他（受賞歴等）**

(研究業績の続き)

申請者登録名

平成25年度採用分日本学術振興会海外特別研究員申請者に関する評価書

- ・本書式を <http://www.jsps.go.jp/j-ab/index.html> 「募集要項」からダウンロードし、次頁に記載した海外特別研究員の制度並びに評価書作成上の注意点をよく読んで記入してください。
- ・海外の研究者により、英語で記述する場合は、本会所定の書式（英語版）を使用してください。

① 評価者の所属機関： _____ 大 学 _____ 学部・研究科・研究所
_____ 研究所

職： _____ 氏名： _____ 印

②申請者氏名（登録名）	③申請者との関係
④研究課題名（申請書の「研究課題名」を記入）	
⑤申請者の研究姿勢・忍耐力、研究の進捗状況、専門的知識・技量、着想力・創造力、コミュニケーション能力、語学能力、リーダーシップ、将来性などについて記入してください。また、研究の独創性又は特色も明記してください（その研究が共同研究である場合は、特に申請者の当該共同研究において果たした役割及びその寄与の程度が分かるように記入してください）。	

(評価書作成上の注意点)

- *本評価書作成の際は、日本語で記入してください（英語で記入する場合は英語の書式を使用してください）。なお、手書きする場合は、黒インク又は黒ボールペンで丁寧に記入してください。
- *評価書の作成者は、申請者の研究を良く理解している研究者1名とします。「申請者との関係」欄に、申請者との関係（例：現在の受入研究者、大学院での受入研究者、海外における受入研究者、共同研究者等）を具体的かつ詳細に記入してください。
- *本評価書は、審査の重要な資料となるので、当該申請者についてできるだけ具体的かつ明確に記入してください。
- *本評価書は、本書以外に新たに用紙を加えることはできません。
- *写しを6部（A4判両面コピー）とり、本書及び写しを併せて封筒に入れ厳封の上、申請者が作成する申請書に添付してください。

海外特別研究員制度について

日本学術振興会海外特別研究員制度は、我が国における学術の将来を担う国際的視野に富む有能な研究者を養成・確保するため、優れた若手研究者を海外に派遣し、特定の大学等研究機関において長期間研究に専念できるよう支援するものです。

参考：過去の採用状況（平成19～23年度）

年度	申請数	採用数	採用率
23	765	198	25.9%
22	739	138	18.7%
21	762	140	18.4%
20	801	133	16.6%
19	857	133	15.5%

※詳細は <http://www.jsps.go.jp/j-ab/index.html> 「申請・採用状況」および「派遣国状況」をご覧ください。

Letter of Intent to Accept Prospective Fellow by Host Researcher

I am willing to host the following person if she/he is awarded
a JSPS Postdoctoral Fellowship for Research Abroad.

Prospective JSPS fellow	Name	
	Present position	
	Present home institute	
Duration (as JSPS fellow from FY2013)	for 2 years (from _____ / _____ / _____) (day) (month) (year)	
Research project (a title of the research project applying for JSPS fellow)		
Host researcher	Name	
	Position	
	Department	
	Institute	
	E-mail	
Exception clause (ex. Conditions for accepting the fellow)		

Signature: _____

Date: _____ / _____ / _____
(day) (month) (year)

NOTICE: This letter is to confirm your willing to accept the applicant. If s/he is awarded this fellowship, you will be asked to submit an official notice of acceptance.

分科・細目コード表

	分 科	細 目	分科・細目コード	審査を希望することが可能な領域								
				人文学領域	社会科学領域	数物系科学領域	化学領域	工学領域	生物学領域	農学領域	歯医学領域	
総	情報学	情報学基礎	1001			○		○				
		ソフトウェア	1002					○				
		計算機システム・ネットワーク	1003					○				
		メディア情報学・データベース	1004		○			○				
		知能情報学	1005					○				
		知覚情報処理・知能ロボティクス	1006					○				
		感性情報学・ソフトコンピューティング	1007					○				
		図書館情報学・人文社会情報学	1008	○	○			○				
		認知科学	1009	○	○			○				○
		統計科学	1010		○	○		○				
		生体生命情報学	1011					○	○			○
合	脳神経科学	神経科学一般	1101						○	○	○	
		神経解剖学・神経病理学	1102							○	○	
		神経化学・神経薬理学	1103							○	○	
		神経・筋肉生理学	1104							○	○	
		融合基盤脳科学	1105					○			○	
		融合脳計測科学	1106	○	○			○			○	
		融合社会脳科学	1107	○	○						○	
実験動物学	実験動物学	1201								○		
領	人間医工学	医用生体工学・生体材料学	1301				○	○			○	
		医用システム	1302					○			○	
		リハビリテーション科学・福祉工学	1303		○			○			○	
健康・スポーツ科学	身体教育学	1401		○							○	
	スポーツ科学	1402		○							○	
	応用健康科学	1403		○							○	
生活科学	生活科学一般	1501		○							○	
	食生活学	1502		○						○	○	
科学教育・教育工学	科学教育	1601		○	○							
	教育工学	1602		○				○				
域	科学社会学・科学技術史	科学社会学・科学技術史	1701	○	○	○					○	
	文化財科学	文化財科学	1801	○						○	○	
	博物館学	博物館学	1851	○	○	○				○		
	地理学	地理学	1901	○		○					○	
	腫瘍学	発がん	1951								○	○
		腫瘍生物学	1952							○	○	○
		腫瘍免疫学	1953								○	○
		腫瘍診断学	1954								○	○
		臨床腫瘍学	1955								○	○
		がん疫学・予防	1956								○	○
複	環境学	環境動態解析	2001			○	○	○	○	○	○	
		環境影響評価・環境政策	2002		○		○	○	○	○	○	
		放射線・化学物質影響科学	2003				○		○	○	○	
		環境技術・環境材料	2004				○	○			○	
合	ナノ・マイクロ科学	ナノ構造科学	2101			○	○	○				
		ナノ材料・ナノバイオサイエンス	2102			○	○	○	○		○	
		マイクロ・ナノデバイス	2103				○	○			○	
新	社会・安全システム科学	社会システム工学・安全システム	2201		○			○			○	
		自然災害科学	2202			○		○			○	
領	ゲノム科学	ゲノム生物学	2301						○	○	○	
		ゲノム医科学	2302						○	○	○	
		システムゲノム科学	2303			○	○	○	○	○	○	
		応用ゲノム科学	2304				○	○	○	○	○	
域	生物分子科学	生物分子科学	2401				○	○	○	○	○	
		ケミカルバイオロジー	2402				○		○	○	○	
資源保全学	資源保全学	2501						○	○			
地域研究	地域研究	2601	○	○						○		
ジェンダー	ジェンダー	2701	○	○						○		

領域	分 科	細 目	分科・細目コード
工 学	電気電子工学	電力工学・電力変換・電気機器	5101
		電子・電気材料工学	5102
		電子デバイス・電子機器	5103
		通信・ネットワーク工学	5104
		システム工学	5105
		計測工学	5106
		制御工学	5107
	土木工学	土木材料・施工・建設マネジメント	5201
		構造工学・地震工学・維持管理工学	5202
		地盤工学	5203
		水工学	5204
		土木計画学・交通工学	5205
		土木環境システム	5206
	建築学	建築構造・材料	5301
		建築環境・設備	5302
		都市計画・建築計画	5303
		建築史・意匠	5304
	材料工学	金属物性	5401
		無機材料・物性	5402
		複合材料・物性	5403
		構造・機能材料	5404
		材料加工・処理	5405
		金属生産工学	5406
	プロセス工学	化工物性・移動操作・単位操作	5501
		反応工学・プロセスシステム	5502
		触媒・資源化学プロセス	5503
		生物機能・バイオプロセス	5504
	総合工学	航空宇宙工学	5601
		船舶海洋工学	5602
		地球・資源システム工学	5603
リサイクル工学		5604	
核融合学		5605	
原子力学		5606	
エネルギー学		5607	
生 物 学	基礎生物学	遺伝・ゲノム動態	5701
		生態・環境	5702
		植物分子生物・生理学	5703
		形態・構造	5704
		動物生理・行動	5705
		生物多様性・分類	5706
	生物科学	構造生物化学	5801
		機能生物化学	5802
		生物物理学	5803
		分子生物学	5804
		細胞生物学	5805
		発生生物学	5806
		進化生物学	5807
人類学	自然人類学	5901	
	応用人類学	5902	

領域	分 科	細 目	分科・細目コード	
農 学	農学	育種学	6001	
		作物学・雑草学	6002	
		園芸学・造園学	6003	
		植物病理学	6004	
		応用昆虫学	6005	
	農芸化学	植物栄養学・土壌学	6101	
		応用微生物学	6102	
		応用生物化学	6103	
		生物生産化学・生物有機化学	6104	
		食品科学	6105	
	森林学	森林科学	6201	
		木質科学	6202	
	水産学	水産学一般	6301	
		水産化学	6302	
	農業経済学	農業経済学	6401	
		農業工学	農業土木学・農村計画学	6501
			農業環境工学	6502
	農業情報工学		6503	
	畜産学・獣医学	畜産学・草地学	6601	
		応用動物科学	6602	
		基礎獣医学・基礎畜産学	6603	
		応用獣医学	6604	
		臨床獣医学	6605	
	境界農学	環境農学	6701	
		応用分子細胞生物学	6702	
医 学	薬学	化学系薬学	6801	
		物理系薬学	6802	
		生物系薬学	6803	
		創薬化学	6804	
		環境系薬学	6805	
		医療系薬学	6806	
	基礎医学	解剖学一般(含組織学・発生学)	6901	
		生理学一般	6902	
		環境生理学(含体力医学・栄養生理学)	6903	
		薬理学一般	6904	
医化学一般		6905		
病態医化学		6906		
人類遺伝学		6907		
人体病理学		6908		
実験病理学		6909		
薬 学	境界医学	寄生虫学(含衛生動物学)	6910	
		細菌学(含真菌学)	6911	
		ウイルス学	6912	
		免疫学	6913	
		医療社会学	7001	
		応用薬理学	7002	
		病態検査学	7003	
	疼痛学	7004		
	社会医学	衛生学	7101	
		公衆衛生学・健康科学	7102	
法医学		7103		

領域	分科	細目	分科・細目コード
医	内科系臨床医学	内科学一般(含心身医学)	7201
		消化器内科学	7202
		循環器内科学	7203
		呼吸器内科学	7204
		腎臓内科学	7205
		神経内科学	7206
		代謝学	7207
		内分泌学	7208
		血液内科学	7209
		膠原病・アレルギー内科学	7210
		感染症内科学	7211
		小児科学	7212
		胎児・新生児医学	7213
		皮膚科学	7214
		精神神経科学	7215
		放射線科学	7216
歯	外科系臨床医学	外科学一般	7301
		消化器外科学	7302
		胸部外科学	7303
		脳神経外科学	7304
		整形外科学	7305
		麻酔・蘇生学	7306
		泌尿器科学	7307
		産婦人科学	7308
		耳鼻咽喉科学	7309
		眼科学	7310
		小児外科学	7311
		形成外科学	7312
		救急医学	7313
歯学	歯学	形態系基礎歯科学	7401
		機能系基礎歯科学	7402
		病態科学系歯学・歯科放射線学	7403
		保存治療系歯学	7404
		補綴系歯学	7405
		歯科医用工学・再生歯学	7406
		外科系歯学	7407
		矯正・小児系歯学	7408
		歯周治療系歯学	7409
		社会系歯学	7410
看護学	看護学	基礎看護学	7501
		臨床看護学	7502
		生涯発達看護学	7503
		地域・老年看護学	7504

「分科・細目表」付表キーワード一覧

このキーワードは、当該分科・細目の内容等を、申請者が理解しやすくするために例示として付したものであり、キーワードに掲げていない内容を当該分科・細目から排除

領域	分科	細目	分科・細目コード	キーワード
総合領域	情報学	情報学基礎	1001	計算理論、オートマトン理論・形式言語理論、プログラム理論、計算量理論、アルゴリズム理論、暗号系、情報数理、数理論理学、離散構造、計算論的学習理論、量子計算理論、組み合わせ最適化
		ソフトウェア	1002	アルゴリズム工学、並列処理・分散処理、プログラム言語論・プログラミングパラダイム、プログラム処理系、オペレーティングシステム、ソフトウェア工学、ソフトウェアエージェント、仕様記述・仕様検証、開発環境、開発管理、組み込みソフトウェア
		計算機システム・ネットワーク	1003	〔計算機システム〕 計算機アーキテクチャ、回路とシステム、VLSI設計技術、ハイパフォーマンスコンピューティング、リコンフィギャラブルシステム、ディベンダブルコンピューティング、組み込みシステム 〔情報ネットワーク〕 ネットワークアーキテクチャ、ネットワークプロトコル、ネットワークセキュリティ技術、モバイルネットワーク技術、トランスポート技術、オーバレイネットワーク、トラフィックエンジニアリング、ネットワーク運用技術、ネットワーク計測、ユビキタスコンピューティング、大規模ネットワークシミュレーション、相互接続性、ネットワークノードオペレーティングシステム、ネットワーク情報表現形式、サービス構築基盤技術
	メディア情報学・データベース	1004	〔データベース・メディア・情報システム〕 データベース（DBMS）、コンテンツ、マルチメディア、情報システム、Webサービス、モバイルシステム、情報検索、グラフィクス、可視化、コーパス、構造化文書 〔ユーザインターフェース〕 ヒューマンインターフェイス、ユーザモデル、グループウェア、バーチャルリアリティ、ウェアラブル機器、ユニバーサルデザイン、アクセシビリティ、ユーザビリティ	
	知能情報学	1005	探索・論理・推論アルゴリズム、学習と知識獲得、知識ベース・知識システム、知的システムアーキテクチャ、知能情報処理、自然言語処理、知識発見とデータマイニング、知的エージェント、オントロジー、ウェブインテリジェンス	
	知覚情報処理・知能ロボティクス	1006	〔知覚情報処理〕 パターン認識、画像情報処理、音声情報処理、コンピュータビジョン、情報センシング、センサ融合・統合、センシングデバイス・システム 〔知能ロボティクス〕 知能ロボット、行動環境認識、モーションプランニング、感覚行動システム、自律システム、デジタルヒューマンモデル、アニメーション、実世界情報処理、物理エージェント、インテリジェントルーム	
	感性情報学・ソフトロボティクス	1007	〔感性情報学〕 感性デザイン学、感性表現学、感性認識学、感性認知科学、感性ロボティクス、感性計測評価、あいまいと感性、感性情報処理、感性データベース、感性インタフェース、感性生理学、感性材料製品、感性産業、感性環境学、感性社会学、感性哲学、感性教育学、感性脳科学、感性経営学 〔ソフトコンピューティング〕 ニューラルネットワーク、遺伝アルゴリズム、ファジィ理論、カオス、フラクタル、複雑系、確率的情報処理	
	図書館情報学・人文社会情報学	1008	〔図書館情報学〕 図書館学、情報サービス、図書館情報システム、デジタルアーカイブ、情報組織化、情報検索、情報メディア、計量情報学・科学計量学、情報資源の構築・管理 〔人文社会情報学〕 文学情報、歴史情報、情報社会学、法律情報、情報経済学、経営情報、教育情報、芸術情報、医療情報、科学技術情報、知的財産情報、地理情報	
	認知科学	1009	認知心理学、進化・発達、学習・思考・記憶、推論・問題解決、感覚・知覚・注意、感情・情緒・行動、比較認知心理学、認知哲学、脳認知科学、認知言語学、行動意思決定論、認知工学、認知考古学、認知モデル、社会性	
	統計科学	1010	調査・実験計画、多変量解析、時系列解析、分類・パターン認識、統計的推測、統計計算・コンピュータ支援統計、統計的予測・制御、モデル選択、最適化理論、医薬生物・ゲノム統計解析、行動計量分析、数理ファイナンス、データマイニング、空間・環境統計、統計教育、統計の品質管理、統計的学習理論、社会調査の計画と解析、データサイエンス	
	生体生命情報学	1011	〔生物情報科学〕 バイオインフォマティクス、ゲノム情報処理、プロテオーム情報処理、コンピュータシミュレーション、生体生命システム情報学 〔生命体システム情報学〕 生体情報、ニューロインフォマティクス、脳型情報処理、人工生命システム、生命分子計算、DNAコンピュータ	
	脳神経科学	神経科学一般	1101	分子・細胞神経科学、発生・発達・再生神経科学、神経内分泌学、臨床神経科学、神経情報処理、認知神経科学、行動神経科学、非侵襲的脳活動計測、計算論的神経科学、神経心理学、言語神経科学、病態脳科学
		神経解剖学・神経病理学	1102	〔神経解剖学〕 神経伝導学、神経回路網、神経組織学、分子神経生物学、神経微細形態学、神経組織細胞化学、神経発生・分化・異常、神経再生・神経可塑性、神経実験形態学、脳画像解剖学、神経細胞学 〔神経病理学〕 神経細胞病理学、分子神経病理学、神経変性疾患、脳発達障害、老化性痴呆疾患、脳循環障害、脳代謝性疾患、中毒性疾患、脳腫瘍、脊髄疾患、筋・末梢神経疾患

領域	分科	細目	分科・細目コード	キーワード
総合領域	科学教育・教育工学	科学教育	1601	自然科学教育（数学、理科、物理・化学・生物・地学、情報）、工学教育、自然認識、科学的社会認識、科学リテラシー、実験・観察、科学教育カリキュラム、環境教育、産業・技術教育、科学高等教育、科学技術教育史、科学と社会・文化、科学技術政策、教師教育・科学コミュニケーター養成
		教育工学	1602	カリキュラム・教授法開発、教授学習支援システム、分散協調教育システム、ヒューマン・インターフェイス、教材情報システム、メディアの活用、遠隔教育、eラーニング、コンピュータ・リテラシー、メディア教育、学習環境、教師教育、授業
	科学社会学・科学技術史	科学社会学・科学技術史	1701	科学社会学、生命倫理、科学史、技術史、医学史、産業考古学、科学哲学・科学基礎論、科学技術社会論(STS)
	文化財科学	文化財科学	1801	年代測定、材質分析、製作技法、保存科学、遺跡探査、動植物遺体・人骨、文化財・文化遺産、文化資源、文化財政策
	博物館学	博物館学	1851	博物館展示学、博物館教育学、博物館情報学、博物館経営学、博物館行財政学、博物館資料論、博物館学史
	地理学	地理学	1901	地理学一般、土地利用・景観、環境システム、地域計画、地理教育、地誌、地形、気候、水文、地図、地理情報システム、リモートセンシング
	腫瘍学	発がん	1951	ゲノム不安定性、エピジェネティクス、がんゲノム解析、化学発がん、放射線発がん、ウイルス発がん、細菌感染と発がん、炎症とがん、実験動物モデル、遺伝子改変動物
		腫瘍生物学	1952	がん遺伝子、がん制御遺伝子、シグナル伝達と遺伝子発現、DNA複製、細胞周期、がんと遺伝、アポトーシス、細胞極性、細胞接着・運動、浸潤、転移、がん細胞の特性、がん微小環境、血管新生、リンパ管新生、幹細胞、細胞老化、細胞不死化
		腫瘍免疫学	1953	液性免疫、細胞免疫、抗体療法、免疫療法、ワクチン療法、細胞療法、サイトカイン、免疫抑制、免疫活性化
		腫瘍診断学	1954	ゲノム解析、プロテオミクス解析、発現解析、がんの個性診断、オーダーメイド治療、薬効評価と予測、バイオマーカー、腫瘍マーカー、分子イメージング、エピゲノム、miRNA、機能性RNA
臨床腫瘍学		1955	抗がん物質探索・ケミカルバイオロジー、化学療法、分子標的治療、内分泌療法、ドラッグデリバリー、物理療法、遺伝子治療、核酸治療、細胞療法	
がん疫学・予防		1956	バイオバンク、民族疫学、コホート研究、遺伝子環境相互作用、予防介入研究、化学予防、がん研究と社会の接点	

領域	分科	細目	分科・細目コード	キーワード
環境学	環境動態解析	環境影響評価・環境政策	2001	環境変動、物質循環、環境計測、環境モデル、環境情報、地球温暖化、地球規模水循環変動、極域環境監視、化学海洋、生物海洋
			2002	〔環境影響評価〕 陸圏・水圏・大気圏影響評価、生態系影響評価、影響評価手法、健康影響評価、次世代環境影響評価、極域の人間活動 〔環境政策〕 環境理念、環境経済、環境マネジメント、環境活動、環境と社会、合意形成、安全・安心
	放射線・化学物質影響科学	環境技術・環境材料	2003	〔放射線影響科学〕 環境放射線(能)、防護、基礎過程、線量測定・評価、損傷、応答、修復、感受性、生物影響、リスク評価 〔化学物質影響科学〕 トキシコロジー、人体有害物質、微量化学物質汚染評価、内分泌かく乱物質
			2004	〔環境技術〕 環境保全技術、環境修復技術、省資源技術、省エネルギー技術、リサイクル技術、環境負荷低減技術 〔環境材料〕 循環再生材料設計、循環再生加工、循環材料生産システム、人間生活環境、グリーンケミストリー、生態環境
ナノ・マイクロ科学	ナノ構造科学	2101	〔化学系〕 ナノ構造化学、クラスター・微粒子、ナノ・マイクロ反応場、単分子操作、階層構造・超構造、表面・界面ナノ構造、自己組織化 〔物理系〕 ナノ構造物性、メソスコピック物理、ナノプローブ、量子情報、ナノトライボロジー	
	ナノ材料・ナノバイオサイエンス	2102	〔ナノ材料〕 ナノ材料創製、ナノ材料解析・評価、ナノ表面・界面、ナノ機能材料、ナノ計測、ナノ構造形成・制御、分子素子、ナノ粒子・ナノチューブ、1分子科学 〔ナノバイオサイエンス〕 DNAデバイス、ナノ合成、分子マニピュレーション、バイオチップ、1分子生理・生化学、1分子生体情報学、1分子科学、1分子イメージング・ナノ計測、ゲノム工学	
	マイクロ・ナノデバイス	2103	〔マイクロデバイス・マイクロマシン〕 MEMS・NEMS、マイクロファブ리케이션、マイクロ光デバイス、マイクロ化学システム、マイクロバイオシステム、マイクロメカニクス、マイクロセンサー 〔ナノデバイス〕 ナノ構造作製、自己組織化、ナノ粒子、量子ドット、カーボンナノチューブ、ナノ物性制御、量子効果、ナノ電子デバイス、ナノ光デバイス、スピンドデバイス、分子デバイス、単量子デバイス、ナノマシン	
社会・安全システム科学	社会システム工学・安全システム	2201	〔社会システム工学〕 社会工学、社会システム、政策科学、開発計画、経営工学、経営システム、OR、品質管理、インダストリアルエンジニアリング、モデリング、ロジスティックス、マーケティング、ファイナンス、プロジェクトマネジメント、環境管理 〔安全システム〕 安全システム、安全工学、危機管理、都市・社会防災、火災・事故、安全情報・環境整備、社会の防災力(避難、パニック、情報伝達、ハザードマップ)、信頼性工学	
	自然災害科学	2202	〔地震・火山防災〕 地震動、液状化、活断層、津波、火山噴火、火山噴出物・土石流、地震災害、火山災害、被害予想・分析・対策、建造物防災 〔自然災害〕 気象災害、水災害、地盤災害、土砂流、濁水、雪氷災害、自然災害予測・分析・対策、ライフライン防災、地域防災計画・政策、復旧・復興工学、災害リスク評価	
ゲノム科学	ゲノム生物学	2301	ゲノム構造多様性、動物ゲノム、植物ゲノム、微生物ゲノム、細菌叢ゲノム、オルガネラゲノム、ゲノム進化、ゲノム構築、ゲノム維持修復、ゲノム機能発現、遺伝子発現調節、トランスクリプトーム、プロテオーム、メタボローム、エピゲノム、ゲノムデータベース、比較ゲノム	
	ゲノム医科学	2302	疾患関連遺伝子、個別化医療、遺伝子診断、ヒトゲノム構造多様性、ゲノム創薬、再生医療、ゲノムワイド関連解析、ヒトゲノム配列再解析、疾患モデル生物ゲノム、疾患エピゲノミクス、ヒト集団遺伝学、遺伝統計学、メディカルインフォマティクス	
	システムゲノム科学	2303	遺伝子ネットワーク、蛋白質ネットワーク、代謝ネットワーク、発生分化、合成生物学、データベース生物学、モデル化とシミュレーション、バイオインフォマティクス、データベース統合化、ゲノム解析技術、機能性RNA、エピゲノム制御	
	応用ゲノム科学	2304	〔産業ゲノム科学〕 産業動物ゲノム、産業植物ゲノム、ヒト・動物細菌叢、産業微生物ゲノム、マーカー育種、ゲノム生物学 〔環境ゲノム科学〕 環境ゲノム、メタゲノム、ゲノム共生、生物多様性、種の保全、遺伝子資源、バイオデータベース	
生物分子科学	生物分子科学	2401	天然物有機化学、二次代謝産物、生物活性物質、生体高分子、化学修飾、生体機能関連物質、活性発現の分子機構、構造活性相関、生合成、生物活性分子の設計・合成、コンビナトリアル化学、機器分析、化学生態学、プロテオミクス	
	ケミカルバイオロジー	2402	生体内機能発現、医薬品探索、診断薬探索、農薬開発、化合物ライブラリー、構造活性相関、多様性指向有機合成、バイオプローブ、分子イメージング、生体分子計測、細胞内化学反応	
資源保全学	資源保全学	2501	保全生物、生物多様性保全、系統生物保全、遺伝子資源保全、生態系保全、在来種保全、種子保全、細胞・組織保全、微生物保全	
地域研究	地域研究	2601	ヨーロッパ、ロシア・スラブ地域、北アメリカ、中・南アメリカ、東アジア、東南アジア、南アジア、西アジア・中央アジア、アフリカ(含アフリカ史)、オセアニア(含オセアニア史)、世界・地域間比較研究、援助・地域協力	
ジェンダー	ジェンダー	2701	性差・性別役割、セクシュアリティ、思想・運動・歴史、法・政治、経済・労働、社会政策・社会福祉、身体・表現・メディア、科学技術・医療・生命、教育・発達、開発、暴力・売買春、比較文化、女性学・男性学・クィア・スチューデイズ	

領域	分科	細目	分科・細目コード	キーワード
人	哲学	哲学・倫理学	2801	哲学原論・各論、倫理学原論・各論、西洋哲学、西洋倫理学、日本哲学、日本倫理学、比較哲学、宗教哲学
		中国哲学	2802	中国哲学・思想、中国仏教、道教、儒教
		印度哲学・仏教学	2803	印度哲学・思想、仏教学・仏教史全般
		宗教学	2804	宗教学全般、宗教史、宗教社会学、宗教哲学、比較宗教学
		思想史	2805	西洋思想史、東洋・日本思想史、比較思想史、宗教思想史、社会思想史、政治思想史、科学思想史、芸術思想史
		美学・美術史	2806	美学、美術史
文学	芸術学	芸術学・芸術史・芸術一般	2851	音楽学、美術論、芸術諸学、表象文化論、大衆芸術、美術館・博物館学、芸術・文化政策
		日本文学	2901	日本文学一般、古代文学、中世文学、近世文学、近・現代文学、漢文学、書誌学・文献学、文学批評・文学理論
		英米・英語圏文学	2902	英文学、米文学、英語圏文学、書誌学・文献学、文学批評・文学理論、比較文学
		ヨーロッパ文学（英文学を除く）	2903	仏文学、独文学、ロシア東欧文学、その他のヨーロッパ各国文学、西洋古典学、書誌学・文献学、文学批評・文学理論、比較文学
言語学	各国文学・文学論	2904	中国文学、アフリカ文学、東南アジア文学、その他の各国文学、書誌学・文献学、文学批評・文学理論、比較文学	
		言語学	3001	音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、談話研究、文字論、辞書論、社会言語学、心理言語学、言語の生物的基盤、歴史言語学、仏語学、独語学、中国語学、その他の語学、危機・少数言語
		日本語学	3002	音声・音韻、文法、語彙・意味、文字、文章・文体、方言、言語生活、日本語史、日本語学史
		英語学	3003	音声・音韻、文法、語彙・意味、文体、英語史、英語学史、英語の多様性
		日本語教育	3004	日本語教育制度・言語政策、教師論・教室研究、教授法・カリキュラム、第二言語習得理論、教育工学・教材・教育メディア、母語保持・バイリンガル教育、異文化理解・異文化コミュニケーション、日本事情、日本語教育史、教育評価・測定
史学	外国語教育	3005	外国語教育制度、外国語教育論・教育史、教授法・カリキュラム論、第二言語習得理論、教育工学・教材・教育メディア一般、e-ラーニング・コンピュータ支援学習(CALL)、異文化コミュニケーション、教育評価・測定、外国語教師養成、英語教育一般、早期英語教育	
		史学一般	3101	世界史、文化交流史、比較歴史学、比較文明論、史料学、グローバル化
		日本史	3102	古代史、中世史、近世史、近現代史、地方史、文化史、交流史、日本史一般、史料研究
		東洋史	3103	中国古代・中近世史、中国近現代史、東アジア史、東南アジア史、南アジア史、西アジア・イスラーム史、中央ユーラシア史、比較・交流史
		西洋史	3104	古代史、中世史、西欧近現代史、東欧近現代史、南欧近現代史、北欧近現代史、南北アメリカ史、史料研究、比較・交流史
		考古学	3105	考古学一般、先史学、歴史考古学、日本考古学、アジア考古学、古代文明学、物質文化学、実験考古学、埋蔵文化財研究、情報考古学
		人文地理学	3201	地理思想・方法論、経済・交通地理学、政治・社会地理学、文化地理学、都市地理学、農村地理学、歴史地理学、地域環境・災害、地理教育、地域計画・地域政策、地誌学、地理情報システム、絵図・地図
文化人類学	3301	文化人類学、民俗学、民族学、社会人類学、比較民俗学、物質文化、先史・歴史、芸能・芸術、宗教・儀礼、開発・援助、ジェンダー、医療、人口・移住、マイノリティ、生態・環境、メディア		
社会科	法学	基礎法学	3401	法哲学・法理学、ローマ法、法制史、法社会学、比較法、外国法、法政策学、法と経済
		公法学	3402	憲法、行政法、租税法、国法学、立法学、憲法訴訟、比較憲法、憲法史、行政組織法、行政手続法、行政救済法、国際税法、裁判法
		国際法学	3403	国際公法、国際私法、国際人権法、国際組織法、国際経済法、国籍法、国際民事手続法、国際取引法
		社会法学	3404	労働法、経済法、社会保障法、教育法
		刑事法学	3405	刑法、刑事訴訟法、犯罪学、刑事政策、少年法
		民事法学	3406	民法、商法、民事訴訟法、法人、企業組織法、金融法、証券法、保険法、国際取引法、倒産法、紛争処理法制、民事執行法
		新領域法学	3407	環境法、医事法、情報法、知的財産法、EU法、法とジェンダー、法学教育・法曹論
	政治学	政治学	3501	政治理論、政治思想史、政治史、日本政治分析、政治過程論、選挙研究、行政学、比較政治、公共政策
		国際関係論	3502	国際理論、外交史・国際関係史、対外政策論、安全保障論、国際政治経済論、国際協調論（含国際レジューム論、国際統合論）、トランスナショナル・イシュー（含国際交流論）、グローバル・イシュー
	経済学	理論経済学	3601	ミクロ経済学、ゲーム理論、マクロ経済学、経済理論、経済制度・体制理論
		経済学説・経済思想	3602	経済学説、経済学史、経済思想、経済思想史、社会思想、社会思想史
		経済統計学	3603	統計制度、統計調査、統計史、統計学説史、人口統計、所得・資産分布、国民経済計算、計量経済学
		応用経済学	3604	国際経済学、労働経済学、産業論、産業組織論、都市経済学、環境経済学、医療経済学、地域経済学
経済政策		3605	経済政策、経済事情、日本経済、社会保障、経済体制、経済発展、政策シミュレーション	
財政学・金融論		3606	財政学、公共経済学、金融論、ファイナンス、国際金融論	
経済史		3607	経済史、経営史、産業史	

領域	分科	細目	分科・細目コード	キーワード
社会科学	経営学	経営学	3701	企業経営、経営組織、経営財務、経営情報、経営管理、経営戦略、国際経営、人的資源管理、技術経営、企業の社会的責任、ベンチャー企業
		商学	3702	マーケティング、消費者行動、流通、商業、保険
		会計学	3703	財務会計、管理会計、会計監査、簿記、国際会計、税務会計、公会計、環境会計
	社会学	社会学	3801	社会哲学・社会思想、社会学史、一般理論、社会学方法論、社会調査法、数理社会学、相互行為・社会関係、社会集団・社会組織、制度・構造・社会変動、知識・科学・技術、政治・権力・国家、身体・自我・アイデンティティ、家族・親族・人口、地域社会・村落・都市、産業・労働・余暇、階級・階層・社会移動、文化・宗教・社会意識、コミュニケーション・情報・メディア、ジェンダー・世代、教育・学校、医療・福祉、社会問題・社会運動、差別・排除、環境・公害、国際社会・エスニシティ
		社会福祉学	3802	社会福祉原論・社会福祉理論、社会福祉思想・社会福祉史、社会保障・社会福祉政策、ソーシャルワーク・社会福祉援助技術、貧困・社会的排除・差別・児童・家族・女性福祉、障害児・障害者福祉、高齢者福祉、地域福祉・コミュニティソーシャルワーク、保健・医療・介護福祉、学校・司法ソーシャルワーク、福祉マシナリ・権利擁護・評価、国際福祉・福祉NGO、ボランティア・福祉NPO、社会福祉教育・実習
	心理学	社会心理学	3901	自己過程、社会的認知・感情・態度・信念、社会的相互作用・対人関係、対人コミュニケーション、集団・リーダーシップ、集合現象、産業・組織、文化、社会問題、環境問題、メディア・電子ネットワーク、人事、作業、消費者問題
		教育心理学	3902	生涯発達、親子関係、発達障害、パーソナリティ、学習過程、教授法、学級集団・経営、教育評価、教育相談、カウンセリング、学生相談
		臨床心理学	3903	心理的障害、犯罪・非行、心理アセスメント、心理療法、心理学的介入、心理検査、セルフコントロール、心理面接過程、事例研究、セルフヘルプグループ、セラピスト論、地域援助、健康開発、心理リハビリテーション、健康心理学
		実験心理学	3904	生理、感覚・知覚、注意、学習・行動分析、記憶、思考、言語、動機づけ、情動、行動、データ解析法、意識、原理・歴史
	教育学	教育学	4001	教育哲学、教育思想、教育史、カリキュラム論、学習指導論、学力論、教育方法、教育評価、教育行財政、学校経営、学校教育、幼児教育・保育、生涯学習、社会教育、家庭教育、教育政策
教育社会学		4002	教育社会学、教育経済学、教育人類学、教育政策、比較教育、人材開発・開発教育、学校組織・学校文化、教師・生徒文化、青少年問題、学力問題、多文化教育、ジェンダーと教育、教育調査法、教育情報システム	
教科教育学		4003	各教科の教育（国語、算数・数学、理科、社会、地理・歴史、公民、生活、音楽、図画工作・美術工芸、家庭、技術、英語、情報）、専門教科の教育（工業、商業、農業、水産、看護、福祉）、カリキュラム構成・開発、教材開発、教科外教育（総合的学習、道徳、特別活動）、生活指導・生徒指導、進路指導	
特別支援教育		4004	障害者教育、特別ニーズ教育、障害児保育、特別ニーズ保育、インクルージョン、特別支援学校、特別支援学級、通級による指導、特別な教育的ニーズ、学習困難、知的障害、軽度発達障害、身体障害、精神障害、疾患・病気療養、行動障害、重度重複障害、育児困難・虐待、学校不適応、教育相談・カウンセリング	
数学	代数学	代数学	4101	数論、群論、数論幾何学、群の表現論、リー環論、代数的組み合わせ論、代数解析、代数幾何、環論、代数一般
		幾何学	4102	微分幾何、複素多様体、位相幾何、複素解析幾何、微分トポロジー
	数学一般（含確率論・統計数学）	4103	数学基礎論、確率論、統計数学、応用数学、組合せ論、情報数論、離散数学、数値数学、数論モデル、自己組織化	
	基礎解析学	4104	複素解析、実解析、関数方程式、関数解析、確率解析、代数解析	
	大域解析学	4105	関数方程式の大域理論、変分法、非線形現象、多様体上の解析、力学系、作用素環、可積分系	
天文学	天文学	4201	光学赤外線天文学、電波天文学、太陽物理学、位置天文学、理論天文学、X線γ線天文学	
物理学	素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理（理論）	素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理（理論）	4301	素粒子、原子核、宇宙線、宇宙物理、相対論・重力、加速器、粒子測定技術
		素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理（実験）	4302	
	物性Ⅰ（光物性・半導体・誘電体）（理論）	物性Ⅰ（光物性・半導体・誘電体）（理論）	4303	半導体、メソスコピック系・局在、光物性、表面・界面、結晶成長、誘電体、格子欠陥、X線・粒子線、フォノン物性
		物性Ⅰ（光物性・半導体・誘電体）（実験）	4304	
	物性Ⅱ（磁性・金属・低温）（理論）	物性Ⅱ（磁性・金属・低温）（理論）	4305	磁性、磁気共鳴、強相関係、高温超伝導、金属、超低温・量子凝縮系、超伝導・密度波、分子性固体・有機導体
		物性Ⅱ（磁性・金属・低温）（実験）	4306	

領域	分科	細目	分科・細目コード	キーワード
数 物 系 科 学	物理学	数理解物理・物性基礎(理論)	4307	統計物理学、物性基礎論、数理解物理、可積分系、非平衡・非線形物理学、応用数学、力学、流体物理、不規則系、計算物理学
		数理解物理・物性基礎(実験)	4308	
		原子・分子・量子エレクトロニクス	4309	原子・分子、量子エレクトロニクス、量子情報、放射線、ビーム物理
		生物物理・化学物理	4310	高分子・液晶、化学物理、生物物理、ソフトマターの物理
	地球惑星科学	固体地球惑星物理学	4401	地震現象、火山現象、地殻変動・海底変動、地磁気、重力、観測手法、テクトニクス、内部構造、内部変動・物性、固体惑星・衛星・小惑星、惑星形成・進化、固体惑星探査、地震災害・予測
		気象・海洋物理・陸水学	4402	気象、海洋物理、陸域水循環・物質循環、水収支、地球環境システム、地球流体力学、気候、惑星大気、大気海洋相互作用
		超高層物理学	4403	太陽地球システム・宇宙天気、太陽風・惑星間空間、地球惑星磁気圏、地球惑星電離圏、地球惑星上層大気、宇宙プラズマ、地磁気変動、プラズマ波動
		地質学	4404	地層、地殻、環境地質、テクトニクス、地質時代、地球史、応用地質、惑星地質学、第四紀学、地質災害・地質ハザード
		層位・古生物学	4405	層序、古環境、化石、系統・進化・多様性、古生態、古生物地理、機能・形態、古海洋
		岩石・鉱物・鉱床学	4406	地球惑星物質、地球惑星進化、地殻・マントル・核、マグマ・火成岩、変成岩、天然・人工結晶、元素分別濃集過程、鉱物資源、鉱床形成、鉱物物理、生体・環境鉱物
地球宇宙化学		4407	元素分布、同位体・放射年代、物質循環、地殻・マントル化学、地球外物質化学、大気圏・水圏化学、生物圏地球化学	
プラズマ科学	4501	プラズマ基礎、プラズマ応用、プラズマ計測、プラズマ物理、放電、反応性プラズマ、宇宙・天体プラズマ、核燃焼プラズマ、プラズマ化学、プラズマ制御・レーザー		
化 学	基礎化学	物理化学	4601	分子構造、結晶構造、電子状態、分子動力学、化学反応、反応動力学、クラスター、溶液・コロイド、分子分光、励起分子素過程、量子ビーム、電子・エネルギー移動、表面・界面、理論化学、電気化学、スピン化学、生物物理化学
		有機化学	4602	構造有機化学、反応有機化学、合成有機化学、有機元素化学、有機光化学、物理有機化学、理論有機化学
		無機化学	4603	金属錯体化学、有機金属化学、無機固体化学、溶液化学、生物無機化学、核・放射化学、クラスター、超分子錯体、多核錯体、配位高分子
	複合化学	分析化学	4701	試料処理、化学分析、生物学的分析、核利用分析、分離分析、化学センサー、チップ分析、クロマトグラフィ、機器分析、表面分析、状態分析、環境分析、生体分析、バイオセンサー
		合成化学	4702	選択的合成・反応、錯体・有機金属触媒、ファインケミカルズ、不斉合成・反応、触媒設計・反応、環境調和型反応、反応場、自動合成、生物的合成手法、コンビナトリアル手法
		高分子化学	4703	高分子合成、高分子反応・分解、不斉重合、重合触媒、非共有結合高分子、自己組織化高分子、高分子構造、高分子物性、機能性高分子、生体関連高分子、高分子薄膜・表面、高分子錯体、環境関連高分子
		機能物質化学	4704	光物性、電気・磁気的機能、分子素子、センサー、分子認識、超分子、液晶・結晶、膜・集合体、表面・界面、コロイド・超微粒子、電気化学、機能触媒
		環境関連化学	4705	グリーンケミストリー、リサイクル化学、低環境負荷物質、生分解性物質、高機能触媒、微量環境物質評価、反応媒体、安全化学、マイクロ化学手法、高効率反応設計
		生体関連化学	4706	生体機能関連化学、生体関連高分子化学、生物無機化学、天然物有機化学、生物有機化学、バイオテクノロジー、核酸・蛋白質・糖化学、酵素化学、生体認識・機能化学、ポストゲノム創薬、生体機能材料
	材料化学	機能材料・デバイス	4801	液晶材料・素子、有機EL素子、有機半導体デバイス、光学材料・素子、有機電子材料・素子、導電機能素子、分子素子、電気・磁気デバイス、電池、コンデンサー、生体機能応用デバイス
有機工業材料		4802	機能性有機材料、ハイブリッド材料、界面活性剤、染料・顔料、色素・色材、印刷・インキ、レジスト、接着剤、選択的反応、新規官能基	
無機工業材料		4803	結晶・多結晶材料、ガラス、セラミックス、微粉体、層状・層間化合物、イオン交換体・伝導体、無機合成、光触媒、電気化学、ナノ粒子、多孔体、ハイブリッド材料	
高分子・繊維材料		4804	高分子材料物性、高分子材料合成、繊維材料、ゴム材料、ゲル、高分子機能材料、天然・生体高分子材料、ポリマーアロイ、高分子系複合材料、高分子・繊維加工、高分子計算科学	
工 学	応用物理学・工学基礎	応用物性・結晶工学	4901	金属、半導体、磁性体、超伝導体、非晶質、誘電体、セラミックス、結晶成長、エピタキシャル成長、結晶評価、ヘテロ構造、光物性、微粒子、有機分子、液晶、新機能材料、スピントロニクス、有機・量子エレクトロニクス、バイオエレクトロニクス
		薄膜・表面界面物性	4902	薄膜、表面、界面、プラズマプロセス、真空、ビーム応用、走査プローブ顕微鏡、電子顕微鏡
		応用光学・量子光工学	4903	光、光学素子・装置・材料、画像・光情報処理、視覚工学、量子エレクトロニクス、レーザー、非線形光学、量子光学、フォトニック結晶、光エレクトロニクス、微小光学、光計測、光記録、光制御、光プロセッシング
		応用物理学一般	4904	力、熱、音、振動、電磁気、物理計測・制御、標準、センサー、マイクロマシン、エネルギー変換、プラズマ、放射線、加速器
		工学基礎	4905	数理工学(数理解析・計画・設計・最適化)、物理数学、計算力学、シミュレーション工学
学	機械工学	機械材料・材料力学	5001	材料設計・プロセス・物性・評価、連続体力学、構造力学、損傷力学、破壊、疲労、環境強度、信頼性設計、生体力学、マイクロ材料力学
		生産工学・加工学	5002	生産モデリング、生産システム、生産管理、工程設計、工作機械、成形加工、切削・研削加工、特殊加工、超精密加工、ナノ・マイクロ加工、精密位置決め・加工計測
		設計工学・機械機能要素・トライボロジー	5003	設計工学、形状モデリング、CAE/CAD、創造工学、機構学、機械要素、機能要素、故障診断、安全・安心設計、ライフサイクル設計、トライボロジー

領域	分科	細目	分科・細目コード	キーワード
工	機械工学	流体工学	5004	数値流体力学、流体計測、圧縮・非圧縮流、乱流、混相流、反応流、非ニュートン流、マイクロ流、分子流体力学、バイオ流体力学、環境流体力学、音響、流体機械、油空圧機器
		熱工学	5005	熱物性、対流、伝導、輻射、物質輸送、燃焼、マイクロ・ナノスケール伝熱、熱機関、冷凍・空調、伝熱機器、エネルギー利用、生体熱工学
		機械力学・制御	5006	運動力学、動的設計、振動学、振動解析・試験、制御機器、運動制御、振動制御、機械計測、耐震・免震設計、交通機械制御、音響情報・制御、音響エネルギー
		知能機械学・機械システム	5007	ロボティクス、メカトロニクス、マイクロ・ナノメカトロニクス、バイオメカニクス、ソフトメカニクス、情報機器・知能機械システム、精密機械システム、人間機械システム、情報システム
	電気電子工学	電力工学・電力変換・電気機器	5101	電気エネルギー工学（発生・変換・貯蔵、省エネルギーなど）、電力系統工学、電気機器、パワーエレクトロニクス、電気有効利用、電気・電磁環境、照明
		電子・電気材料工学	5102	電気・電子材料（半導体、誘電体、磁性体、超誘電体、有機物、絶縁体、超伝導体など）、薄膜・量子構造、厚膜、作成・評価技術
		電子デバイス・電子機器	5103	電子デバイス・集積回路、回路設計・CAD、光デバイス・光回路、量子デバイス・スピンデバイス、マイクロ波・ミリ波、波動利用工学、バイオデバイス、記憶・記録、表示、センシング、微細プロセス技術、インターコネクト・パッケージのシステム化・応用
		通信・ネットワーク工学	5104	電子回路網、非線形理論・回路、情報理論、信号処理、通信方式（無線、有線、衛星、光、移動）、変復調、符号化、プロトコル、アンテナ、中継・交換、ネットワーク・LAN、マルチメディア、暗号・セキュリティ
		システム工学	5105	システム情報（知識）処理、社会システム工学、経営システム工学、環境システム工学、生産システム工学、バイオシステム工学
		計測工学	5106	計測理論、センシングデバイス、計測機器、計測システム、信号処理、センシング情報処理
制御工学		5107	制御理論、システム理論、知識型制御、制御機器、制御システム、複雑系	
土木工学	土木材料・施工・建設マネジメント	5201	コンクリート、鋼材、瀝青材料、複合材料・新材料、木材、施工、維持・管理、建設事業計画・設計、建設マネジメント	
	構造工学・地震工学・維持管理工学	5202	応用力学、構造工学、鋼構造、コンクリート構造、複合構造、風工学、地震工学、耐震構造、地震防災、維持管理工学	
	地盤工学	5203	土質力学、基礎工学、岩盤工学、土地地質、地盤の挙動、地盤と構造物、地盤防災、地盤環境工学	
	水工学	5204	水理学、環境水理学、水文学、河川工学、水資源工学、海岸工学、港湾工学、海洋工学	
	土木計画学・交通工学	5205	土木計画、地域都市計画、国土計画、防災計画・環境計画、交通計画、交通工学、鉄道工学、測量・リモートセンシング、景観・デザイン、土木史	
	土木環境システム	5206	環境計画・管理、環境システム、環境保全、用排水システム、廃棄物、土壌・水環境、大気循環・騒音振動、環境生態	
	建築学	建築構造・材料	5301	荷重論、構造解析、構造設計、コンクリート構造、鋼構造、基礎構造、構造材料、建築工法、保全技術、地震防災、構造制御、耐震設計、耐風設計
建築環境・設備		5302	音・振動環境、光環境、熱環境、空気環境、環境設備計画、環境心理生理、建築設備、火災工学、地球・都市環境、環境設計	
都市計画・建築計画		5303	計画論、設計論、住宅論、各種建物・地域施設、都市・地域計画、行政・制度、建築・都市経済、生産管理、防災計画、景観・環境計画	
建築史・意匠		5304	建築史、都市史、建築論、意匠、様式、景観・環境、保存・再生	
材料工学	金属物性	5401	電子・磁気物性、半導体物性、熱物性、光物性、力学物性、超伝導、薄膜物性、ナノ物性、計算材料物性、表面・界面・粒界物性、微粒子・クラスター、準結晶、照射損傷、原子・電子構造、格子欠陥、拡散・相変態・状態図	
	無機材料・物性	5402	結晶構造・組織制御、力学・電子・電磁・光・熱物性、表面・界面物性、高温特性、粒界特性、機能的セラミックス、機能的ガラス、構造用セラミックス、カーボン材料、誘電体、無機高分子	
	複合材料・物性	5403	有機・無機繊維、マトリックス材、複合効果、分散強化、長繊維強化、FRM、FRP、FRC、傾斜機能、複合粒子、複合破壊、複合変形応力、界面破壊、反応焼結、複合高分子	
	構造・機能材料	5404	強度・靱性・破壊・疲労・クリープ・応力腐食割れ・超塑性・磨耗、ナノ構造、磁性材料、電子・情報材料、水素吸蔵材料、燃料電池材料、熱・エネルギー材料、センサー材料・光機能材料、極低温材料、耐震・耐環境材料、バイオマテリアル、高温材料、アモルファス材料、インテリジェント・安全・安心材料、新機能材料、エコマテリアル、機能的高分子材料	
	材料加工・処理	5405	表面・界面制御、腐食防食、塑性加工、粉末冶金、熱処理、接合・溶接、結晶・組織制御、ナノプロセス、微細加工、プラズマ処理・レーザー加工、溶射・コーティング・粒子積層プロセス、めっきプロセス、非破壊検査、薄膜プロセス、非平衡プロセス、メカニカルアロイング、精密造形プロセス、電極触媒、補修・延命処理、電気接続・配線	
	金属生産工学	5406	反応・分離、素材精製、融体・凝固、鑄造、結晶育成、組織制御、高純度化、各種製造プロセス、省エネプロセス、極限環境・環境調和型プロセス、エコマテリアル化、資源分離・資源保障、廃棄物処理、材料循環プロセス、リサイクル、安全材料工学	
プロセス工学	化工物性・移動操作・単位操作	5501	平衡・輸送物性、流動・伝熱・物質移動操作、蒸留、抽出、吸収、吸着、イオン交換、膜分離、異相分離、超高度分離、攪拌・混合操作、粉粒体操作、晶析操作、薄膜・微粒子形成操作、高分子成形加工操作	
	反応工学・プロセスシステム	5502	気・液・固・超臨界流体反応操作、新規反応場、反応速度、反応機構、反応装置、材料合成プロセス、重合プロセス、計測・センサー、プロセス制御、プロセスシステム設計、プロセス情報処理、プロセス運転・設備管理	

領域	分科	細目	分科・細目コード	キーワード	
工	プロセス工学	触媒・資源化学プロセス	5503	触媒反応、触媒調製化学、触媒機能解析、エネルギー変換プロセス、化石燃料有効利用技術、資源・エネルギー有効利用技術、省資源・省エネルギー技術、燃焼技術	
		生物機能・バイオプロセス	5504	生体触媒工学、生物機能工学、食品工学、医用化学工学、応用生物電気化学、バイオ生産プロセス、バイオリアクター、バイオセンサー、バイオセパレーション、バイオインフォマティクス	
	総合工学	航空宇宙工学	5601	航空宇宙流体力学、構造・材料、振動・強度、誘導・航法・制御、推進・エンジン、飛行力学、航空宇宙システム、設計・計装、特殊航空機、宇宙利用・探査、航空宇宙環境	
		船舶海洋工学	5602	推進・運動性能、材料・構造力学、海事流体力学、計画・設計・生産システム、建造・艤装、海上輸送システム、船用機関・燃料、海洋環境、海洋資源・エネルギー、海洋探査・機器、海中・海底工学、極地工学	
		地球・資源システム工学	5603	応用地質、地殻工学、リモートセンシング、地球計測、地球システム、資源探査、資源開発、資源評価、資源処理、廃棄物地下保存・処分、地層汚染修復、深地層開発、素材資源、再生可能資源・エネルギー、資源経済	
	学	リサイクル工学	5604	廃棄物発生抑制、再使用、再生利用、再資源化、有価物回収、固固分離、素材の高純度化、適正処分の技術とシステム、リサイクルとLCA、環境配慮設計、グリーンプロダクション、ゼロエミッション	
		核融合学	5605	炉心プラズマ、周辺プラズマ、プラズマ計測、プラズマ・壁相互作用、理論シミュレーション、低放射化材料、燃料・ブランケット、電磁・マグネット、慣性核融合、核融合システム工学、安全・生物影響	
		原子力学	5606	放射線工学・ビーム科学、炉物理・核データ、原子力計測・放射線物理、熱流動・構造、システム設計・安全工学、原子力材料・核燃料、同位体・放射線化学、燃料サイクル、バックエンド、新型原子炉、保健物理・環境安全、原子力社会環境	
		エネルギー学	5607	エネルギー生成・変換、エネルギー輸送・貯蔵、エネルギー節約・効率利用、エネルギーシステム、環境調和、自然エネルギーの利用	
		基礎生物学	遺伝・ゲノム動態	5701	分子遺伝、細胞遺伝、集団遺伝、進化遺伝、人類遺伝、遺伝子多様性、ゲノム構築・再編・維持、ゲノム機能・発現、発生遺伝、行動遺伝、変異原、染色体、モデル生物
生	生態・環境	5702	個体群、生物社会、種間関係、群集、生態系、進化生態、行動生態、自然環境、生理生態、分子生態、保全生態学		
		植物分子生物学・生理学	5703	色素体機能・光合成、植物ホルモン・成長生理・全能性、オルガネラ・細胞壁、環境応答、植物微生物相互作用・共生、代謝生理、植物分子機能	
	動物形態・植物形態	5704	動物形態、植物形態、微生物形態、比較内分泌、分子形態学、形態形成、組織構築、微細構造、顕微鏡技術		
	動物生理・行動	5705	代謝生理、神経生物、神経行動、行動生理、動物生理化学		
	生物多様性・分類	5706	分類群、分類体系、進化、遺伝的多様性、集団・種多様性、群集・生態系多様性、分類形質、系統、種分化、自然史、博物館		
	生物学	生物科学	構造生物化学	5801	糖質、脂質、核酸、タンパク質、酵素、遺伝子及び染色体、生体膜及び受容体、細胞間マトリックス、細胞小器官、翻訳後修飾、分子認識及び相互作用、変性とフォールディング、立体構造解析及び予測、NMR、質量分析、X線結晶解析、高分解能電子顕微鏡解析
		機能生物化学	5802	酵素の触媒機構、酵素の調節、アロステリック効果、酵素異常、遺伝子の情報発現と複製、生体エネルギー変換、金属タンパク質、生体微量元素、ホルモンと生理活性物質、細胞情報伝達機構、膜輸送と輸送タンパク質、細胞内タンパク質分解、細胞骨格、免疫生化学、糖鎖生物学、生物電気化学	
		生物物理学	5803	タンパク質・核酸の構造・動態・機能、運動・輸送、生体膜・受容体・チャンネル、光生物、細胞情報・動態、脳・神経系の情報処理、理論生物学・バイオインフォマティクス、構造生物学、フォールディング、構造・機能予測、1分子計測・操作、バイオイメージング、非平衡・複雑系	
		分子生物学	5804	DNA複製、DNA損傷・修復、組換え、転写、RNA、翻訳、タンパク質修飾、分子間相互作用、染色体構築・機能・分配	
		細胞生物学	5805	細胞構造・機能、生体膜、細胞骨格・運動、細胞内情報伝達、細胞間情報伝達、細胞周期、細胞質分裂、核構造、細胞間相互作用・細胞外マトリックス、タンパク質分解、クロマチン	
発生生物学		5806	細胞分化、幹細胞、胚葉形成・原腸形成・体節形成、器官形成、受精、生殖細胞、遺伝子発現調節、発生遺伝、進化発生		
進化生物学		5807	生命起源、真核生物起源、オルガネラ起源、多細胞起源、分子進化、形態進化、機能進化、遺伝子進化、進化生物学一般、比較ゲノム、実験進化学		
人類学	自然人類学	5901	形態、先史・年代測定、生体機構、分子・遺伝、生態、霊長類、進化、成長・老化、社会、行動・認知、生殖・発生、骨考古学、地理的多様性		
	応用人類学	5902	生理人類学、人間工学、生理的多型性、環境適応能、全身的協働、機能的潜在性、テクノ・アダプタビリティ、ソマトメトリー、被服、生体・適応、体質・健康、法医学人類学、医療人類学		
農	農学	育種学	6001	植物育種・遺伝、育種理論、遺伝資源・系統分化、植物分子育種、抵抗性・耐性、変異創成・解析、遺伝子・タンパク質、染色体工学、植物ゲノム情報、品質・成分、発育生理・発生遺伝	
		作物学・雑草学	6002	食用作物、工芸作物、飼料作物、栽培体系、作物品質・加工、雑草科学、雑草制御、野生植物資源	
		園芸学・造園学	6003	果樹、野菜、花卉、園芸利用、園芸貯蔵・加工、施設園芸、造園、景観形成・保全、緑地計画	
		植物病理学	6004	病態、感染生理、植物・病原体相互作用、病原性因子、病害防除、病害抵抗性、系統分類、感染・増殖	
		応用昆虫学	6005	応用動物、鳥獣管理、昆虫利用・機能開発、昆虫病理、養蚕・蚕糸、昆虫生態、昆虫生理、昆虫分類、害虫管理・生物的防除、昆虫分子生物学、昆虫行動	

領域	分科	細目	分科・細目コード	キーワード
農	農芸化学	植物栄養学・土壌学	6101	植物成長・生理、植物栄養代謝、植物代謝調節、肥料、土壌分類、土壌物理、土壌化学、土壌生物、土壌環境
		応用微生物学	6102	微生物学、発酵生産、微生物分類、微生物遺伝・育種、微生物酵素、微生物代謝、微生物機能、微生物利用学、環境微生物、抗生物質生産、微生物生態学、微生物制御学、遺伝子資源、遺伝子発現
		応用生物化学	6103	動物生化学、植物生化学、酵素利用学、遺伝子工学、タンパク質工学、生物工学、代謝工学、細胞・組織培養、酵素化学、代謝生理、遺伝子発現、物質生産、細胞応答、情報伝達、微量元素
		生物生産化学・生物有機化学	6104	生物活性物質、細胞機能調節物質、農薬科学、植物成長調節物質、情報分子、生合成、天然物化学、生物無機化学、物理化学、分析化学、有機化学、生物制御化学、分子認識
		食品科学	6105	食品化学、食糧化学、食品生化学、食品物理学、食品工学、食品機能、食品保蔵、食品製造・加工、栄養化学、栄養生化学、食品安全性、食品分析
	森林学	森林科学	6201	森林生産・育種、森林生態・保護・保全、森林生物、森林管理・政策、森林風致、森林利用、緑化・環境保全林、治山・砂防、崩壊・地すべり・土石流、水資源涵養・水質
		木質科学	6202	組織構造・材形成、材質・物性、セルロース、リグニン、抽出成分・微量成分、化学加工、保存・木質文化、乾燥・機械加工、接着・木質材料、強度・木質構造、居住性・感性、木質バイオマス、パルプ・紙
	水産学	水産学一般	6301	分類、発生、形態、生理、生態・行動、漁業、資源・資源管理、増養殖、遺伝・育種、魚病、水圏環境・保全、海藻、プランクトン、微生物、有害藻類
		水産化学	6302	生化学、代謝・酵素、水族栄養、分子生物学、生物工学、生体高分子、天然物化学、分析化学、食品化学、食品加工・貯蔵、食品衛生、食品微生物
	農業経済学	農業経済学	6401	農業経営、農業政策、農業経済、農業金融、農業史、国際農業、農業地域計画、農村社会、農業と環境、フードシステム、マーケティング、食の安全、農業倫理
	農業工学	農業土木学・農村計画学	6501	水理、水文、土壌物理、土質力学・応用力学、土地改良施設、材料・施工、灌漑排水、農地整備・農地計画、地域計画・地域づくり、地域環境・農村景観、農村生態系、水質汚濁・水環境、物質循環、土壌保全・防災
		農業環境工学	6502	農業生産環境、生物生産機械、ポストハーベスト工学、生物生産システム、農作業技術管理、農業労働科学、流通管理、生物環境調節、施設園芸・植物工場、バイオプロセッシング、自然エネルギー利用、農業気象・微気象、気象災害、温暖化影響、環境緑化
		農業情報工学	6503	画像処理・画像認識、非破壊計測、生体計測、バイオセンシング、バイオインフォマティクス、リモートセンシング、地理情報システム、モデリング・シミュレーション、コンピュータネットワーク、ICT/知識処理、農業ロボティクス、精密農業、生物環境情報、農業情報、農作業情報
	畜産学・獣医学	畜産学・草地学	6601	草地生態、草地利用、草地管理・保全、飼料、栄養・飼養、家畜生産システム、家畜管理・福祉、野生鳥獣管理・利用、畜産物利用、畜産バイオマス
		応用動物科学	6602	育種・繁殖、代謝・内分泌制御、機能性物質、発生工学、クローン家畜、家畜ゲノム、野生動物保護・増殖
基礎獣医学・基礎畜産学		6603	遺伝、発生、生理、形態、薬理、病理、病態、病原微生物、寄生虫、免疫、生体情報、行動	
応用獣医学		6604	家畜衛生、獣医公衆衛生、トキシコロジー、疾病予防・制御、野生動物、動物福祉、人獣共通感染症、疫学	
臨床獣医学		6605	内科、外科、臨床繁殖・産科、診断、検査、治療、予後、臨床病理・病態、再生医療、麻酔・鎮痛、放射線科学、動物看護	
境界農学	環境農学	6701	環境分析、環境汚染、環境修復、環境浄化、水域汚染、資源循環システム、バイオマス、遺伝子資源、生物環境、資源環境バランス、地域農学	
	応用分子細胞生物学	6702	遺伝子・染色体工学、タンパク質・糖鎖工学、代謝工学、オルガネラ工学、細胞工学、発現制御、発生・分化制御、細胞間相互作用、分子間相互作用、バイオセンサー、細胞機能、分子情報、機能分子設計	
医	薬学	化学系薬学	6801	有機化学、合成化学、生体関連物質、生薬・天然物化学、有機反応学、ヘテロ環化学、不斉合成
		物理系薬学	6802	物理化学、分析化学、製剤学、生物物理化学、同位体薬品化学、生命錯体化学、分子構造学、構造生物学、イメージング、ドラッグデリバリー、情報科学
		生物系薬学	6803	生化学、分子生物学、免疫学、細胞生物学、発生生物学、薬理学、薬効解析学、神経生物学
		創薬化学	6804	医薬品化学、医薬分子設計、生物活性物質、医薬分子機能学、ゲノム創薬、レギュラトリーサイエンス
		環境系薬学	6805	環境衛生学、環境化学、環境動態学、食品衛生学、栄養化学、微生物・感染症学、薬用資源学、中毒学
		医療系薬学	6806	臨床薬学、薬物動態・代謝学、医療薬理学、医薬品情報・安全性学、臨床化学、薬剤経済学、オーダーメイド医療、社会薬学、病院薬局・保険薬局管理学
菌	基礎医学	解剖学一般(含組織学・発生学)	6901	肉眼解剖学、機能解剖学、臨床解剖学、比較解剖学、画像解剖学、形質人類学、発生学・形態形成学、先天異常学・奇形学、実験形態学、解剖学教育、細胞学、組織学、細胞分化・組織形成、細胞機能形態学、細胞微細形態学、分子形態学、細胞組織化学、顕微鏡技術
		生理学一般	6902	分子・細胞生理学、生体膜・チャネル・トランスポーター・能動輸送、受容体・細胞内シグナル伝達、刺激分泌連関、上皮機能、遺伝・受精・発生・分化、細胞増殖・細胞死、細胞運動・形態形成・細胞間相互作用、微小循環・末梢循環・循環力学・循環調節、換気力学・血液ガス・呼吸調節、消化管運動・消化吸収、腎・体液・酸塩基平衡、血液凝固・血液レオロジー、病態生理、システム生理・フィジオーム、比較生理学・発達生理学・ゲノム生理学
		環境生理学(含体力医学・栄養生理学)	6903	環境生理学、体力医学、栄養生理学、適応・協関係生理学、生体リズム、発達・成長・老化、ストレス、宇宙医学、行動生理学、生物時計、温熱生理学、摂食調節、社会環境、睡眠・覚醒、生殖生理学
		薬理学一般	6904	腎臓、骨格筋・平滑筋、消化器、炎症・免疫、生理活性物質、中枢・末梢神経、脊髄・痛み、受容体・チャネル・輸送系・シグナル情報伝達系、心血管・血液、創薬・ゲノム薬理学、薬物治療・トキシコロジー、生薬・天然物薬理学
		医化学一般	6905	生体分子医学、細胞医化学、ゲノム医学、発生医学、再生医学、加齢医学、高次生命医学、細胞内シグナル伝達
		病態医化学	6906	代謝異常学、分子病態学、分子遺伝子診断学、分子腫瘍学、分子病態栄養学

領域	分科	細目	分科・細目コード	キーワード	
医	基礎医学	人類遺伝学	6907	ゲノム医科学、分子遺伝学、細胞遺伝学、薬理遺伝学、遺伝生化学、遺伝疫学、遺伝診断学、遺伝子治療学、遺伝カウンセリング、生命倫理学、エビジェネティクス	
		人体病理学	6908	脳・神経、消化器・唾液腺、呼吸器・縦隔、循環器、泌尿生殖器・内分泌、骨・関節・筋肉・皮膚・感覚器、血液、分子病理、地理病理、診断病理学、テレパソロジー、環境病理、移植病理	
		実験病理学	6909	動物、細胞、分子、超微形態、腫瘍、炎症、中毒病理、発生病理、疾患モデル動物、再生医学	
		寄生虫学(含衛生動物学)	6910	蠕虫、原虫、媒介節足動物、病害動物、分子、疫学、発生、遺伝、免疫、熱帯病・国際医療	
		細菌学(含真菌学)	6911	病原性、感染免疫、疫学、遺伝、分類、診断、構造・生理	
		ウイルス学	6912	分子、細胞、個体、疫学、病原性、診断・治療、感染防御・ワクチン、プリオン	
		免疫学	6913	サイトカイン、抗体、抗原認識、リンパ球、自然免疫、獲得免疫、粘膜免疫、免疫記憶、免疫寛容・自己免疫、免疫監視・腫瘍免疫、免疫不全、アレルギー・免疫関連疾患、免疫制御・移植免疫	
	菌	境界医学	医療社会学	7001	病院管理学、医療管理学、医療情報学、バイオエシックス、医学史、医学・薬学教育、医療経済学、リスクマネジメント、医療の質、地域医療学、医療政策学、社会保障学、介護・福祉、医療政策評価、感染制御学
			応用薬理学	7002	臨床薬理学、臨床試験・倫理、薬物治療学、医薬品副作用・薬物相互作用、薬物輸送学、ファーマコゲノミクス、同位体医療薬学、機器医療薬学、薬物代謝酵素・トランスポーター、イメージング、ヒト組織利用研究、薬物依存・薬剤感受性、遺伝子診断・治療、ドラッグデリバリー、薬剤疫学
			病態検査学	7003	臨床検査医学、臨床病理学、臨床化学、免疫血清学、臨床検査システム、遺伝子検査学、臨床微生物学、腫瘍検査学、臨床血液学、生理機能検査学
疼痛学			7004	疼痛の評価法、疼痛の疫学、鎮痛薬、疼痛の非薬物治療、発痛物質、疼痛の発生・増強機序、疼痛の神経機構、痛覚過敏、疼痛の遺伝的要因、疼痛の発達・加齢要因、疼痛の性差、疼痛反射、しびれ、侵害受容器、組織障害性疼痛、神経障害性疼痛、精神・心理的疼痛、痒み評価法、痒みの疫学、鎮痒薬、起痒物質、痒みの発生・増強機序、痒みの神経機構、掻破行動、痒み過敏、精神・心理的痒み、痒みの発達・加齢要因	
社会医学		衛生学	7101	環境保健、予防医学、産業衛生、環境疫学、分子遺伝疫学、医学統計、生命倫理、環境中毒、産業中毒、環境生理、地球環境、災害事故、人間工学、交通医学、食品衛生	
		公衆衛生学・健康科学	7102	地域保健、母子保健、学校保健、成人保健、保健栄養、健康管理、健康教育、医療行動学、人口問題、国際保健学、保健医療行政、病院管理学、医療情報学、介護保険、疫学、健康診断、集団検診	
		法医学	7103	法医学、医の倫理、犯罪精神医学、矯正医学、保険医学、診療録管理学、法医鑑定学、アルコール医学、法歯学、DNA多型医学、法医病理学	
薬		内科系臨床医学	内科学一般(含心身医学)	7201	心療内科学、ストレス科学、東洋医学、代替医療、緩和医療、総合診療、プライマリーケア、老年医学
			消化器内科学	7202	上部消化管学(食道、胃、十二指腸)、下部消化管学(小腸、大腸)、肝臓学、胆道学、膵臓学、消化器内視鏡学
		循環器内科学	7203	臨床心血管病態学、分子心臓病態学、分子血管病態学	
	呼吸器内科学	7204	閉塞性肺疾患、非閉塞性肺疾患[癌、肺線維症、呼吸器感染症、その他]		
	腎臓内科学	7205	腎臓学、高血圧学、水・電解質代謝学、人工透析学		
	神経内科学	7206	神経分子病態学、神経病態免疫学、臨床神経分子遺伝学、臨床神経生理学、臨床神経形態学、臨床神経心理学、神経機能画像学		
	代謝学	7207	エネルギー・糖質代謝異常、メタボリックシンドローム、脂質代謝異常、プリン代謝異常、骨・カルシウム代謝異常、電解質代謝異常		
	内分泌学	7208	内分泌学、生殖内分泌学		
	血液内科学	7209	血液内科学、血液腫瘍学、血栓・止血学、輸血学、造血幹細胞移植学、血液免疫学、免疫制御学		
	膠原病・アレルギー内科学	7210	膠原病学、リウマチ学、アレルギー学、臨床免疫学、炎症学		
	感染症内科学	7211	感染症診断学、感染症治療学、感染症防御学、国際感染症学、感染疫学、日和見感染症		
	小児科学	7212	発達小児科学、成育医学、小児神経学、小児内分泌学、小児代謝・栄養学、遺伝・先天異常学、小児保健学、小児社会医学、小児血液学、小児腫瘍学、小児免疫・アレルギー・膠原病学、小児循環器学、小児呼吸器学、小児感染症学、小児腎・泌尿器学、小児消化器病学		
	胎児・新生児医学	7213	出生前診断、胎児医学、先天異常学、新生児医学、未熟児医学		
	皮膚科学	7214	皮膚診断学、皮膚病理学、皮膚腫瘍学、レーザー治療学、皮膚生理学、色素細胞学、性感染症学、皮膚感染症、皮膚炎症・再生学		
	精神神経科学	7215	精神薬理学、臨床精神分子遺伝学、精神生理学、精神病理学、社会精神医学、児童・思春期精神医学、老年精神医学、司法精神医学、神経心理学、リエゾン精神医学、精神科リハビリテーション医学		
	放射線科学	7216	画像診断学(含放射線診断学)、エックス線・CT、核磁気共鳴画像(MRI)、核医学(PETを含む)、放射性医薬品・造影剤、放射線管理、医用画像工学、インターベンショナルラジオロジー(IVR)、血管形成術・骨形成術・血管塞栓術、ラジオ波治療・ステント治療・リザーバー治療、放射線治療学、放射線腫瘍学、放射線治療物理学、放射線治療生物学、粒子線治療		

領域	分科	細目	分科・細目コード	キーワード
医	外科系臨床医学	外科学一般	7301	外科総論、移植外科学、人工臓器学、血管外科学、実験外科学、内分泌外科学、乳腺外科学、代謝栄養外科学
		消化器外科学	7302	食道外科学、胃十二指腸外科学、小腸大腸肛門外科学、肝臓外科学、脾門脈外科学、胆道外科学、膵臓外科学
		胸部外科学	7303	心臓大血管外科学、呼吸器外科学、縦隔外科学、胸膜外科学
		脳神経外科学	7304	頭部外傷学、脳血管障害学、脳血管内外科学、実験脳外科学、神経画像診断学、脳腫瘍学、機能脳神経外科学、小児脳神経外科学、脊髄・脊椎疾患学、脳外科手術機器学、放射線脳外科学
		整形外科	7305	脊椎脊髄病学、筋・神経病学、理学療法学、運動器リハビリテーション学、骨・軟部腫瘍学、四肢機能再建学、小児運動器学、運動器外傷学、関節病学、リウマチ病学、骨・軟骨代謝学、スポーツ医学
		麻酔・蘇生学	7306	麻酔学、蘇生学、周術期管理学、疼痛管理学
		泌尿器科学	7307	腫瘍学、排尿学、結石症学、感染症学、再生医学、奇形学、副腎外科学、腎移植、アンドロロジー
		産婦人科学	7308	産科学、生殖医学、婦人科学、婦人科腫瘍学、更年期医学
		耳鼻咽喉科学	7309	耳科学、鼻科学、頭頸部外科学、気管食道学、喉頭科学、咽頭科学
		眼科学	7310	臨床研究、疫学研究、社会医学、眼生化学・分子生物学、眼細胞生物学、眼遺伝学、眼組織学、眼病理学、眼薬理学、眼生理学、眼発生・再生医学、眼免疫学、眼微生物学・感染症学、視能矯正学、眼光学、眼工医学
		小児外科学	7311	先天性消化器疾患学、先天性心大血管外科学、胎児手術学、小児泌尿器科学、小児呼吸器外科学、小児腫瘍学
		形成外科学	7312	再建外科学、創傷治癒学、マイクロサージェリー学、組織培養・移植学、再生医学
		救急医学	7313	集中治療医学、外傷外科学、救急蘇生学、急性中毒学、災害医学
薬	歯学	形態系基礎歯科学	7401	口腔解剖学（含組織学・発生学）、口腔病理学、口腔細菌学
		機能系基礎歯科学	7402	口腔生理学、口腔生化学、歯科薬理学
		病態科学系歯学・歯科放射線学	7403	実験腫瘍学、免疫・感染・炎症、歯科放射線学一般、歯科放射線診断学
		保存治療系歯学	7404	保存修復学、歯内療法学
		補綴系歯学	7405	歯科補綴学一般、有床義歯補綴学、冠橋義歯補綴学、顎顔面補綴学、顎口腔機能学
		歯科医用工学・再生歯学	7406	歯科理工学、歯科材料学、生体材料学、接着歯学、再生歯学、歯科インプラント学
		外科系歯学	7407	口腔外科学一般、臨床腫瘍学、歯科麻酔学、病態検査学、口腔顎顔面再建外科学
		矯正・小児系歯学	7408	歯科矯正学、小児歯科学、小児口腔保健学、顎口腔機能機構学
		歯周治療系歯学	7409	歯周免疫機能学、歯周外科学、歯周予防学
		社会系歯学	7410	口腔衛生学（含公衆衛生学・栄養学）、予防歯科学、歯科医療管理学、歯科法医学、老年歯科学、歯科心身医学
看護学	基礎看護学	基礎看護学	7501	看護哲学、看護倫理学、看護技術、看護教育学、看護管理学、看護政策・行政、災害看護、看護の歴史
		臨床看護学	7502	重篤・救急看護学、周術期看護学、慢性病看護学、リハビリテーション看護学、ターミナルケア、がん看護学
		生涯発達看護学	7503	家族看護学、母性・女性看護学、助産学、小児看護学
		地域・老年看護学	7504	地域看護学、公衆衛生看護学、学校看護、産業看護、老年看護学、精神看護学、在宅看護、訪問看護、家族看護学、リハビリテーション看護学

平成25年度採用分海外特別研究員申請書作成要領

I	申請書の作成について	1
II	電子申請システムのID・パスワードの取得について	2
III	「申請書情報」の入力について	4
IV	「申請内容ファイル」の作成について	13
V	申請書の添付書類について	14
VI	申請書の提出方法について	17

I 申請書の作成について

(1) 申請書は、「申請書情報」と「申請内容ファイル」から構成されます。

「申請書情報」は電子申請システムに必要な情報をWeb上から入力し、作成されたPDFファイルを印刷するもので、申請書のP.1～4となります。

「申請内容ファイル」は、本会ホームページからダウンロードした電子ファイル（Word等）を編集して作成するもので、申請書のP.5以降となります。

電子申請システムを通じて登録される申請書情報のデータと、紙で提出される申請書の2つが揃わないと正式な申請となりません。また、両者の内容が一致しない場合も無効となります。

特に紙に印刷して提出する「申請書情報」の「版数」の表示と、電子申請システムで登録した電子データの版数が不一致とならないよう注意してください。

電子申請システムで「完了」処理後に「申請書情報」に記載する内容に変更が生じた場合は、申請機関担当者（又は部局担当者）に連絡をし、修正を行ってください。紙媒体の「申請書情報」のみで変更を行わないでください。なお、個人申請者の場合には、本会に事前連絡して当該申請書情報の削除処理を依頼した上で、ID・パスワードの取得および申請書情報作成を改めて行ってください。

(2) 申請書に新たに用紙を加えることはできません。本会が指定した書類（下記V参照）以外（論文の写しなど）も添付できません。もし、該当するものがあつた場合は、審査にあたり不利益を生じることがあります。

(3) 「受入意思確認書（Letter of Intent to Accept Prospective Fellow by Host Researcher）」、「海外における受入研究者との研究についての打ち合わせ状況を示す主要な往復文書」、「採録決定を証明する書類」、「国際会議等の発表申し込みの受理を証明する書類」、「語学試験結果の証明書」、「外国人登録済証明書」、「臨床研修の期間を証明する書類」又は「海外の受入研究機関に関する説明書・パンフレット等」などの添付書類は、申請書のP.12の後に前述の順番で添付してください。詳細は、本作成要領P.14以降をご確認ください。

ただし、「外国人登録済証明書」、「臨床研修の期間を証明する書類」及び「海外の受入研究機関に関する説明書・パンフレット」は原本のみに添付してください。

(4) 原本、写しともに、A4判またはレターサイズ、両面印刷としてください。なお、原本と写しの内容が不一致とならないよう注意してください。原本をカラー印刷で作成した場合は、写しもカラーで作成してください。

II 電子申請システムの ID・パスワードの取得について

海外特別研究員の申請は、募集要項 9. 申請手続(1)申請手続を行う機関に記載の申請時点（申請受付期間時点）での所属状況により手続きが異なります。「機関申請者」と「個人申請者」のいずれに該当するか、以下により各自確認してから適切な手続きを踏んでください。

- ・国内の文部科学省科学研究費補助金の応募資格のある研究機関に所属の者 → 「機関申請者」
- ・国内の文部科学省科学研究費補助金の応募資格のない研究機関に所属の者 → 「個人申請者」
- ・海外の研究機関等に所属の者 → 「個人申請者」
- ・申請時点においては所属のない者 → 「個人申請者」

[注]本会の特別研究員に採用されている者は、海外特別研究員申請時に海外の大学等研究機関において研究活動を行っている場合であっても、必ず日本国内の所属機関を通じて申請手続を行ってください。（この場合は、「機関申請者」に該当します。）

<機関申請者>

申請手続きは、必ず申請時点の所属機関（以下「申請機関」という。）を通じて行ってください。（機関申請者に該当する者が本会へ直接提出したものは、受け付けません。）

申請機関担当者に ID・パスワードの発行依頼を行います。ID・パスワードは特別研究員事業（PD・DC2・DC1・RPD）と共通して使用することが可能です。（申請機関によっては、既に当該申請機関から発行済の ID・パスワード（研究者養成事業用）を引き続き使用することとしている場合があるので、申請機関からの指示に従ってください。）

なお、ID・パスワードは機関毎に管理しておりますので、機関を移動した際には以前の ID・パスワードは使用することはできません。申請する機関に改めて ID・パスワードの発行依頼をしてください。

<個人申請者>

申請手続きは各自で行い、申請書は直接本会へ提出してください。

電子申請システムホームページ（http://www.shinsei.jsps.go.jp/topyousei/top_ken.html）の左端にある「ID・パスワード発行申請（海外特別研究員・個人申請用）」より ID・パスワードの発行申請を行います。各項目への入力要領は以下の表を参考にしてください。

ここで登録した内容は、連絡先を除き申請書情報入力画面に反映され、申請書作成時には修正することはできませんので、ご注意ください。ID・パスワード発行申請時に記載した内容（連絡先以外）に変更が生じた場合や誤りがあった場合には、改めて ID・パスワードの取得からやり直してください。

※電子申請システムの利用にあたっては、「研究者養成事業用申請者向け操作手引」または「研究者養成事業用申請者向け操作手引（海外特別研究員・個人申請用）」を併せて参照してください。

画面	項目	入力要領
1	同意	記載されている内容を全て熟読し確認・同意した上で、「同意する」を選択し、「OK」をクリックする。
2	個人申請理由選択	該当する申請時点（申請書提出時点）での所属状況を選択し、「OK」をクリックする。
3	氏名	<p>戸籍に記載されている氏名を姓・名に分けて漢字等およびフリガナ欄に入力してください。一部の旧字等の JIS 第 1 水準・第 2 水準(JIS・X0208)にない文字については使用することができませんので、入力できない場合には第 1 水準・第 2 水準の文字に置き換えて入力してください。置き換える漢字がない場合、全角カタカナを使用してください。また、姓しかない又は名しかない場合には、「姓」の欄に全て入力してください。</p> <p>なお、採用者として公表する際など、通常本会で取り扱う際に使用する「登録名」については、申請書情報作成時に戸籍名とは異なるものを指定できますので、ここでは必ず戸籍名を登録してください。</p> <p>外国人の場合には、外国人登録済証明書に記載されている氏名を入力してください。</p>

3	性別	男・女いずれかを必ずチェックしてください。
	生年月日	西暦で入力してください。
	課程種別	<p>(1) プルダウンメニューから次の4つのうちいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 博士課程（3年制）・・・区分制博士課程の後期課程、後期課程のみの博士課程 博士課程（5年一貫制）・・・5年一貫制博士課程（本作成要領P.12参照） 博士課程（医・歯・獣医学系4年制）・・・博士(医学)、博士(歯学)、博士(獣医学)等を授与する4年制の博士課程 外国における博士課程 <p>※ 論文博士取得（見込）の者は、「博士課程（3年制）」を選択してください。 ※ 専門職学位課程は、博士課程には含まれません。</p> <p>(2) 「博士課程（医・歯・獣医学系4年制）」を選択した者で、平成25年4月1日現在の年齢が35歳以上となる者は「臨床研修の実績」についてプルダウンメニューから次のいずれかを選択してください。また、該当者は、申請書提出時に「臨床研修の期間を証明する書類」を添付してください。（本作成要領P.15参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> 医学（平成12年改正前の医師法に基づく臨床研修を修了） ：平成16年3月31日以前より行われた1年以上の初期臨床研修 医学（平成12年改正医師法に基づく臨床研修を修了） ：平成16年4月1日以降より行われた2年以上の初期臨床研修 歯学（1年以上の臨床研修を修了） ：平成18年3月31日以前より行われた平成12年改正前の歯科医師法の努力義務規定に基づく研修も含む。 獣医学（6月以上の臨床研修を修了） ：獣医師法に基づく研修
	個人申請の理由 <1の場合> 機関名	機関の正式名称を記載してください。 (例. ○○株式会社、独立行政法人△△研究機構 など)
	個人申請の理由 <1の場合> 部局・部署名	「一覧」ボタンをクリックし「部局コード表」を参照して入力してください。該当するものがない場合には、「9999」を入力し、右側の枠内に具体的な名称を入力してください。コード表に、似ているが合致はしない名称しかない場合には、該当するものがない場合と同様に対応してください。（コード表の「(系)」と記載があるものについて正式名称に「(系)」がない場合でも対応するものとして選択してください。）
	個人申請の理由 <1の場合> 職名・身分等	「一覧」ボタンをクリックし「職名コード表」を参照して入力してください。該当するものがない場合には、「999」を入力し、右側の枠内に具体的な名称を入力してください。コード表に、似ているが合致はしない名称しかない場合には、該当するものがない場合と同様に対応してください。 なお、ポスドクの場合には、「201」（ポスドク）を入力してください。
	個人申請の理由 <2の場合> 機関名	「一覧」ボタンをクリックし「機関コード表」を参照して入力してください。該当するものがない場合には、「999999」を入力し、下の枠内に具体的な名称を和文・英文両方でを入力してください。 コード表に、似ているが合致はしない名称しかない場合には、該当するものがない場合と同様に対応してください。
	個人申請の理由 <2の場合> 職名・身分等	「一覧」ボタンをクリックし「職名コード表」を参照して入力してください。該当するものがない場合には、「999」を入力し、右側の枠内に具体的な名称を入力してください。コード表に、似ているが合致はしない名称しかない場合には、該当するものがない場合と同様に対応してください。 なお、ポスドクの場合には、「201」（ポスドク）を入力してください。
連絡先	必要時に、必ず連絡の取れる連絡先を入力してください。	

Ⅲ 「申請書情報」の入力について

- (1) 「申請書情報」(申請書のP.1～4)については、必ず電子申請システムを用いて作成してください。
- (2) 電子申請システムの利用にあたっては、「研究者養成事業用申請者向け操作手引」又は「研究者養成事業用申請者向け操作手引(海外特別研究員・個人申請用)」を併せて参照してください。
- (3) 「申請書情報」の修正は、必ず電子申請システムを通じて行ってください。紙に印刷したものを直接修正しないでください。(個人申請者の場合には、完了後に修正することはできませんので、本会に事前連絡して当該申請書情報の削除処理を依頼した上で、ID・パスワードの取得および申請書情報作成を改めて行ってください。)
- (4) 「申請書情報」P.1の右上隅を黒塗りしてください。(印刷後、余白が生じている場合はフェルトペン等で塗りつぶしてください。)
- (5) 「受付番号」及び「版数」は電子申請システムが自動的に付番し、PDFファイルに表示されます。一時保存したのみでは付番されません。また、申請書情報入力画面には表示されません。

申請書上での番号	項目	入力要領
④	分科・細目コード	「一覧」ボタンをクリックして「分科・細目コード表」を参照の上、入力してください。
②	分科	「分科・細目コード」を入力すれば、コード表に基づき対応する「分科」名が確認画面に表示されます。
③	細目	「分科・細目コード」を入力すれば、コード表に基づき対応する「細目」名が確認画面に表示されます。
①	審査領域	「分科・細目コード」を入力すれば、コード表に基づき、その分科・細目に対応する「領域」が、PDFファイルに表示されます。審査はその領域において行なわれます。 ただし、『総合領域』又は『複合新領域』で審査を希望する者(即ち④「分科・細目コード」欄に「分科・細目コード表」中の1001～2701を入力した者)の場合は、次項を参照してください。
	審査希望領域(総合領域・複合新領域の場合)	『総合領域』又は『複合新領域』で審査を希望する者(即ち④「分科・細目コード」欄に1001～2701を入力した者)のみ、当該分科・細目についての「審査を希望することが可能な領域」(「分科・細目コード表」参照)を画面のプルダウンメニューから選択してください。『総合領域』・『複合新領域』以外の者は入力しないでください。 (例)『総合領域』内の細目「情報学基礎(1001)」で申請する場合。 →「分科・細目コード表」を参照すると○印のある「数物系科学」領域と「工学」領域の2領域が審査可能領域であるため、この2つのいずれかを選択してください。
⑤	専門分野	分科・細目にかかわらず、自分の専門分野を漢字等により7字以内で入力してください。
⑥	氏名(登録名)	登録名は、海外特別研究員採用者として公表する際など、通常海外特別研究員として本会で取り扱う際に使用する氏名です。旧姓や通称名等を使用することも可能です。初期値としては戸籍名を表示していますので、適宜修正してください。
	氏名(戸籍名)	ID・パスワード発行の際、申請機関から事前に電子申請システムに登録された情報(個人申請者の場合にはご自身で入力された情報)が自動表示されます。万が一、誤りがあった場合は、入力データを一時保存した上で「申請機関担当者(又は申請機関の部局担当者)」に連絡し、修正を依頼してください(個人申請者の場合は、ID・パスワード発行からやり直してください)。
	氏名(ローマ字表記)	ローマ字表記については希望するものを入力してください。こちらは、英文証明書発行時等に使用しますので、入力の際にはご注意ください。 入力は、姓は全て大文字、名は最初の一文字のみ大文字、以降は小文字です。 (証明書使用時の例：YAMADA, Taro)

⑦	性別	男・女いずれかを必ずチェックしてください。 (個人申請者の場合は、ID・パスワード発行の際にご自身で入力された情報が自動表示されます。誤りがあった場合は、ID・パスワード発行からやり直してください。)
⑧	国籍	「日本」「日本以外」のいずれかを必ずチェックしてください。 「日本以外」にチェックした場合のみ、「国名コード」を、「一覧」ボタンをクリックして「国名コード表」を参照の上、入力してください。「日本」にチェックした者は入力しないでください。国名コード表に該当するものが無い場合は「ZZZ」を入力し、具体的な国名をテキストで入力してください。
⑧	永住許可の有無	「国籍」欄で「日本以外」にチェックした場合のみ、プルダウンメニューから永住許可の有／無のいずれかを必ず選択してください。 日本国籍以外の者は永住許可がなければ申請資格がないので、日本に永住を許可されていることを証明する「外国人登録済証明書」又は「外国人登録原票記載事項証明書」等を添付してください。(本作成要領P.15参照) 従って、在留資格が「留学」「日本人の配偶者等」の者は申請できません。
⑨	生年月日	ID・パスワード発行の際、申請機関から事前に電子申請システムに登録された情報(個人申請者の場合にはご自身で入力された情報)が表示され、それに基づき、採用年度の4月1日現在の満年齢も自動表示されます。 この年齢が募集要項に記載の年齢要件を満たしていない場合は申請できません。 万が一、誤りがあった場合は、「申請機関担当者(又は申請機関の部局担当者)」に連絡し、修正を依頼してください(個人申請者の場合は、ID・パスワード発行からやり直してください)。
⑩	(大学院博士課程) 入学年月	(1) 在学/修了した博士課程の状況を入力してください。 (例) 2008年4月 入・進学 (2) 複数の博士課程に在学したことがある場合や、複数の学位を取得している者は、今回の申請に係る学位取得等に係るものを入力し、⑩「学歴」欄に、全ての在学した博士課程の状況や学位取得状況についてテキストで入力してください。 (3) 「3年次編入学」の場合は、そのように選択しその年月を入力してください。 ※ ここでの「3年次編入学」は、修士課程修了者が5年一貫制博士の3年次に編入学することを指します。それ以外の変則的な編入学に該当する場合には、入学種別を「入・進学」とした上で、⑩「学歴」欄に具体的にテキストで入力してください。 (4) 「転入学」の場合は、そのように選択しその年月を入力してください。⑩「学歴」欄に具体的にテキストで入力してください。 (5) 論文博士取得(見込)の者については、入力を省略することができます。
⑩	(大学院博士課程) 大学名	(1) 大学の国内外の別をプルダウンから選択してください。 ※個人申請者の場合で、ID・パスワード発行時に課程種別欄で「外国における博士課程」を選択した場合、「海外の大学」が自動選択されます。また、「外国における博士課程」以外を選択した場合、「国内の大学」が自動選択されます。万が一、誤りがあった場合には、ID・パスワード発行からやり直してください。 ※複数の博士課程に在学したことがある場合や、複数の学位を取得している者は、今回の申請に係る学位取得等に係るものを入力してください。 (2) 「一覧」ボタンをクリックし「機関コード表」を参照して入力してください。該当するものが無い場合は「9999」(海外の大学の場合は「999999」)を入力し、具体的な機関名をテキストで入力してください。
⑩	(大学院博士課程) 研究科名	「一覧」ボタンをクリックし「部局コード表」を参照して「部局コード」を入力してください。該当するものが無い場合は「9999」を入力し、具体的な部局名をテキストで入力してください。海外の大学の場合は、対応する和名で判断し「部局コード」を入力してください。該当するものが無い場合は「9999」を入力し、具体的な研究科名の和名をテキストで入力してください。

<p>⑩ (大学院博士課程) 課程種別</p>		<p>(1) プルダウンメニューから次の4つのうちいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士課程（3年制）・・・区分制博士課程の後期課程、後期課程のみの博士課程 ・博士課程（5年一貫制）・・・5年一貫制博士課程（本作成要領P.12参照） ・博士課程（医・歯・獣医学系4年制）・・・博士(医学)、博士(歯学)、博士(獣医学)等を授与する4年制の博士課程 <p>・外国における博士課程</p> <p>※ 論文博士取得（見込）の者は、「博士課程（3年制）」を選択してください。</p> <p>※ なお、専門職学位課程は、博士課程には含まれません。</p> <p>(2) 「博士課程（医・歯・獣医学系4年制）」を選択した者で、採用年度の4月1日現在の年齢が35歳以上となる者は「臨床研修の実績」についてプルダウンメニューから次のいずれかを選択してください。また、該当者は、申請書提出時に「臨床研修の期間を証明する書類」を添付してください。（本作成要領P.15参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学（平成12年改正前の医師法に基づく臨床研修を修了） ：平成16年3月31日以前より行われた1年以上の初期臨床研修 ・医学（平成12年改正医師法に基づく臨床研修を修了） ：平成16年4月1日以降より行われた2年以上の初期臨床研修 ・歯学（1年以上の臨床研修を修了） ：平成18年3月31日以前より行われた平成12年改正前の歯科医師法の努力義務規定に基づく研修も含む。 ・獣医学（6月以上の臨床研修を修了） ：獣医師法に基づく研修 <p>※個人申請者の場合は、ID・パスワード発行の際にご自身で入力された情報が自動表示されます。誤りがあった場合は、ID・パスワード発行からやり直してください。</p>
<p>⑩ (大学院博士課程) 修了・退学等</p>		<p>(1) 修了区分としては、プルダウンメニューから次のいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修了 ・単位修得済満期退学 ・中途退学 <p>(2) 申請時から採用日までに「修了」等する予定の場合は、「見込」としてください。</p> <p>(3) 人文学・社会科学の学位の取得が著しく困難な分野を専攻する者が募集要項4.申請資格(1)「学位」のただし書きに基づき申請する場合は、「単位修得済満期退学」を選択し、満期退学年月を入力してください。</p> <p>なお、当該課程（専攻）における博士の授与状況について資料を求めることがあります。</p> <p>(4) 論文博士取得（見込）の者については、原則として空欄としてください。ただし、当該博士課程において、過去に「単位修得済満期退学」又は「中途退学」している場合は、その退学年月を入力してください。</p>
<p>⑩ (大学院博士課程) 学位</p>		<p>(1) 学位取得(見込)日を西暦で入力してください。</p> <p>(2) プルダウンメニューから次のいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士取得 ・論文博士取得 ・外国における博士相当の学位取得(Ph.D など) <p>(3) 申請時から採用年度の4月1日までに「博士取得」等する予定の場合は、「見込」としてください。</p>
<p>⑩ (大学院博士課程) 学位付記 専攻分野</p>		<p>(1) 「学位」欄の学位種別として、「博士取得」「論文博士取得」を選択した者のみ、取得（見込）の博士の学位について、学位に付記される専攻分野名を入力してください。</p> <p>(2) 全角19字以内で入力してください。それより長くなる場合は、「学歴」欄に正確な専攻分野名を入力してください。</p> <p>(3) 自動で「()」が前後に追加されますので、名称のみ入力してください。</p>
<p>⑪ 学歴</p>		<p>学部・修士課程(博士前期課程を含む)・博士課程に係る学歴を入力してください。必要事項を正確にテキストで入力し、不要な文字は消去してください。必要に応じて行をずらしても構いません。</p> <p>1行に40字まで入力可。第1行目は省略しないでください。</p> <p>「⑩大学院博士課程」欄の記載と相違ないように留意して入力してください。</p>

⑫	研究・職歴等	<p>本会特別研究員、及びそれ以外の同様のフェローシップの採用歴も含めてテキストで入力してください。研究生歴も本欄に入力してください。1行に50字まで入力可。</p> <p>例：平成20年4月～平成22年3月 ○○会社中央研究所研究員</p> <p>※特別研究員採用歴を入力する際には、下記の例に従って入力してください。 資格について当初の内定・採用の状況と、その後の資格変更の状況を全て入力してください。また、採用年度(2桁)と受付番号を末尾に記載してください。(例えば、平成20年度採用 受付番号 123 場合、末尾に「20-123」と入力) (下記の記入例を参照。)</p> <p>例1：平成19年4月～平成20年3月 DC1 申請・採用 (18-123) 平成20年4月～平成22年3月 DC1 採用後 PD に変更 (18-123)</p> <p>例2：平成19年4月～平成21年3月 DC2 内定後 PD に変更 (18-4567)</p> <p>例3：平成21年4月～平成24年3月 PD 申請・採用 (20-123)</p> <p>例4：平成21年4月～平成22年3月 PD 内定後 DC に変更 (20-4567) 平成22年4月～平成24年3月 DC2 採用後 PD に変更(20-4567)</p>
⑬	現在の所属機関	<p>(1)所属機関名については、ID・パスワード発行をした際の情報が自動表示されます。機関申請者の場合には ID・パスワードを発行した機関名が、個人申請者の場合にはご自身で入力された情報が表示されます。 万が一、誤りがあった場合には、機関申請者・個人申請者のいずれに関しても ID・パスワード発行からやり直す必要があります。修正後が機関申請者に該当する場合には、正しい所属機関に ID・パスワードの発行依頼を行ってください。修正後が個人申請者に該当する場合には、個人申請用 ID・パスワード発行手続きを行ってください。</p> <p>(2)職名については、外国の大学等研究機関のポストクの場合には、「201」(ポストク)を入力してください。 なお、日本学術振興会特別研究員の場合には資格毎 (SPD、PD、RPD、DC) にコードが異なりますので、適切なコードを入力してください。 日本学術振興会特別研究員以外の「特別研究員」の場合には、それぞれ該当するコードが存在しますので、適切なコードを入力してください。コードが存在しない場合には、「999」を入力し、具体的な名称をテキストで入力してください。</p> <p>(3)「任期の有無」欄は、有・無のいずれかを選択してください。現在、所属が無い場合および在学中の場合については、選択する必要はありません。</p> <p>その他の項目の記入要領は、本作成要領 P. 10 参照ください。</p>
⑭	申請資格	<p>(1)募集要項「4. 申請資格 (1)」で (I) と (II) のいずれに該当するかを確認してください。なお、(I) 常勤研究者には任期付も含まれます。</p> <p>(2)プルダウンメニューから次のいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「(1)常勤研究者」 ……申請資格 (I) に該当する者が選択 ・「(2)常勤研究者を志望する者」 ……申請資格 (II) に該当する者が選択 <p>※なお、個人申請者につきましては、申請資格 (II) に該当することになります。</p>
⑮	海外特別研究員終了後の進路	<p>「申請資格」欄で (II) に該当する者は必ず記入してください。 「我が国の大学等学術研究機関、国公立試験研究機関等に所属する常勤研究者を志望する」というものでも差し支えないが、なるべく具体的に記入してください。</p>
⑯	奨学金・フェローシップの有無	<p>(1) プルダウンメニューから該当するものを選択してください。</p> <p>(2) 「有」又は「申請中」を選択した場合、該当する奨学金・フェローシップの名称をテキストで入力してください。</p>
⑰	研究課題名	<ul style="list-style-type: none"> ・研究課題名は具体的な研究内容を 40字以内 (記号、数字等も全角/半角に関わらずすべて1字として数える) で簡潔に入力してください。40字を超えて入力することはできません。 ・研究課題名には、副題を入力しても差し支えありません。特に共同研究課題の場合は、申請者が担当する部分を副題として記載してください。ただし、副題を含めて40字以内としてください。 ・化学式、数式による表記は避け、漢字、カナ等入力してください。ただし、DNA 等ア

⑰	研究課題名	<p>ルファベットで表記することが一般的なものは差し支えありません。 漢字等で書く例：H₂O→水</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JIS 第1水準及び第2水準以外の文字コードや特殊フォントは使用することができません。詳細は、「研究者養成事業用申請者向け操作手引」を参照してください。 (使用できない文字の例) <ul style="list-style-type: none"> ・半角カナ ・○数字 (①、②、③・・・) ・ローマ数字 (I～Vの小文字を含む) 他 ・研究課題名 (英文) も250バイト以内で入力してください。 ・なお、申請書提出後、研究課題名を変更することはできません。
⑱	派遣を希望する期間	<p>(1) 派遣開始日を入力してください。 (2) 派遣開始日は、2013年4月1日から2014年2月28日までの間です。</p>
⑲	派遣国	<p>「一覧」ボタンをクリックし「国名コード表」を参照して「国名コード」を入力してください。該当するものが無い場合は「ZZZ」を入力し、具体的な国名をテキストで入力してください。</p> <p>なお、「アメリカ合衆国」は「米国」(コード：USA)、「イギリス」は「英国」(コード：GBR) という国名で取り扱います。</p>
⑳	海外における受入の大学等研究機関での身分	<p>英文で記載してください。 例. Postdoctoral Fellow、Research Fellow 等</p>
㉑	平成25年度採用分特別研究員との併願	<p>平成25年度採用分の特別研究員・PD、RPDと併願を予定している場合は、併願する事業をプルダウンメニューから選択してください。</p>
㉒	現住所	<p>(1) 「国内の住所」・「海外の住所」のいずれかを選択してください。 (2) 「国内の住所」を選択した場合は、郵便番号を入力してください。(入力例：123-4567) (3) 国内の住所の場合は「住所1」～「住所3」欄に、海外の住所の場合には「住所1」～「住所5」欄に、住所を適切などころで区切って入力してください。郵送に使用する場合はそのまま使用しますので、宛名として正しい語順で入力してください。 ※海外の住所の場合には、必ず最後に郵便番号を記載してください。 (4) 「海外の住所」を選択した場合は、「国名」欄に宛名として使用する形式の国名を入力してください。(例. USA、CHINA など) (5) 特に「希望連絡先」として「現住所」を希望する場合は、確実に届くように、「〇〇様方」など必要な情報は全て記載してください。 ※居住していない住所の場合には、「〇〇様方」の記載が必要です。 (6) 確実に連絡が取れるように、Email アドレスを複数所有している場合には、Email2 にも記載してください。</p>
㉓	所属機関 (所在地・機関名・部局等名)	<p>(1) 「国内の住所」・「海外の住所」のいずれかを選択してください。 (2) 「国内の住所」を選択した場合は、郵便番号を入力してください。(入力例：123-4567) (3) 現在研究に従事している機関について、住所・機関名・部局名・研究室名等を、国内の住所の場合は「住所1」～「住所3」欄に、海外の住所の場合は「住所1」～「住所5」欄に、適切などころで区切って入力してください。郵送に使用する場合はそのまま使用しますので、宛名として正しい語順で入力してください。 ※海外の住所の場合には、必ず最後に郵便番号を記載してください。 (4) 海外の住所の場合には、「国名」欄に宛名として使用する形式の国名を入力してください。 (5) 特に「希望連絡先」として「所属機関」を希望する場合は、確実に届くように、必要な情報は全て記載してください。(例. 「××棟000号室」や「〇〇研究室」など。) ※研究科名等まででは到着しない場合が多いですので、略さず、研究室名まで入力してください。</p> <p>なお、所属機関のない者は、本欄は全て未入力で構いません。</p>

⑭	希望連絡先	<p>(1) 審査結果の開示については、電子申請上で行いますが申請・審査中・採用手続き時に連絡が必要な場合を使用するための連絡先として希望するものを選択してください。</p> <p>上記の「現住所」又は「所属機関」の住所を連絡先としたい場合は、「1. 現住所」又は「2. 所属機関」のボタンを選択すれば、自動的に上の「現住所」欄又は「所属機関」欄で入力済の内容がこの「希望連絡先」欄にコピーされます（後から「現住所」欄又は「所属機関」欄を修正した場合も同様）。</p> <p>もし、「現住所」「所属機関」のいずれとも異なる住所（実家等）を希望連絡先としたい場合は、「3. その他」のボタンを選択し、直接入力してください。</p> <p>(2) 郵便物を発送する場合は、本欄に表示される住所をそのままのかたちで印字して発送するため、<u>郵便物等確実に受け取れる住所</u>となるよう、「現住所」「所属機関（研究室名まで入力のこと）」「その他」欄の入力の際に留意してください。（例.「〇〇研究室」、「〇〇様方」など必要な情報は全て記載してください。）（居住していない住所の場合は、「〇〇様方」の記載が必要です。）</p> <p>なお、機関によっては、学生宛の郵便物を受け取らないところもあるので、希望連絡先はできる限り現住所としてください。</p> <p>また、本欄に記入した内容が今後の本会からの連絡先となるので、変更が生じた場合は、直ちに届け出てください。</p> <p>(3) 確実に連絡を取れるように、Email アドレスを複数所有している場合には、Email2 にも記載してください。Email については、今年中申請者本人と連絡の取れるアドレスを正確に記載してください。申請書情報入力時、「希望連絡先」として登録した Email にアドレス確認のためメールを送信します。メールの受信を確認した上で、申請書情報の入力を完了してください。</p>
⑮	現在の受入研究者	<ul style="list-style-type: none"> ・申請時において研究機関に所属していない場合や申請者本人が常勤研究者である場合等、現在の受入研究者に該当するものがない場合は空欄でも構いません。 ・「科研費研究者番号」については、研究者本人又は所属機関事務局に問い合わせを入力してください。研究者番号を有しない場合又は不明の場合には、「99999999」と入力してください。 ・所属機関・部局・職名については、複数の身分を兼ねている場合は、原則として本務を入力してください（大学内の研究所等の研究者が大学院研究科の教員を兼ねている場合は、本務である当該研究所における身分を入力により入力すること）。ただし、申請者が申請時において在学中の場合には、申請者の所属する大学院研究科における身分を入力してください。 ・外国人の方の場合は、「フリガナ」および「漢字等」欄は両方カタカナで入力してください。 ・その他の項目については、本作成要領P. 10を参照してください。
⑯	大学院での受入研究者	<ul style="list-style-type: none"> ・学位取得の博士課程における研究指導者を必ず入力してください。 ・論文博士の場合は、それに代えて論文審査の主査を入力してください。 ・所属機関・部局・職名は申請者の所属する大学院研究科における身分を入力し、修了当時の内容としてください。 ・「所属機関名」欄は、原則として「大学院博士課程」の「⑩大学名」欄に入力したものと一致させてください。 ・外国人の方の場合には、「フリガナ」および「漢字等」欄は両方カタカナで入力してください。 ・現在の受入研究者と同内容の場合は、入力画面の「現在の受入研究者の内容を複写」という文字をクリックすれば、この「大学院での受入研究者」欄に入力内容を複写できます。 ・その他の項目については、本作成要領P. 10を参照してください。
⑰	海外における受入研究者	<ul style="list-style-type: none"> ・必ず受入研究者本人と連絡をとり、受入について承諾を得てください。なお、申請時に提出する「受入意思確認書」とは別に、採用内定となった後、改めて受入研究者の受入承諾書（受入を正式に承諾している旨の証明書）を求めることとなります。 ・この欄で入力した内容は、採用内定時に発行する証明書に記載されますので、入力の際にはご留意ください。 ・現在の受入研究者と同内容の場合は、入力画面の「現在の受入研究者の内容を複写」と

⑦	海外における受入研究者	<p>いう文字をクリックすれば、この「海外における受入研究者」欄に入力内容を複写できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 氏名について、「FAMILY NAME」は全て大文字で、「First Name」及び「Middle Name」は最初の文字のみ大文字であとは小文字としてください（「-(半角ハイフン)」や半角スペースを文字の間に入れた場合、その後の最初の文字は大文字で表記されます）。また、「Middle Name」については、アルファベットのイニシャルと省略記号「.」で表記してください。 受入機関については、海外における優れた大学等研究機関をひとつ選び記入してください。複数の研究機関を受入研究機関として申請書に記載することはできません。また、我が国の大学等学術研究機関が海外に設置する研究所等、又は営利を目的とした民間研究所等を受入研究機関とすることはできません。大学又は国公立の研究機関以外の場合には、その機関に関する説明書・パンフレット等を添付してください。 住所は郵送時に使用できる語順で記載し、郵便番号や国名を最後に記載してください。
⑧	評価書作成者	<p>「日本学術振興会海外特別研究員申請者に関する評価書」作成者1名の氏名等を入力してください。</p> <p>プルダウンメニューから選択することにより、「⑨現在の受入研究者」、「⑩大学院での受入研究者」欄に入力した内容を複写することが可能。</p>
⑬ ・ ⑮ ・ ⑰ ・ ⑲ 共通事項	<p>【研究者情報の入力について】</p> <p>※入力方法については、下欄を参照してください。</p>	
	所属機関	<p>(1) 「国内の機関」・「海外の機関」のいずれかを選択してください。</p> <p>(2) 「一覧」ボタンをクリックし、「機関コード表」を参照して、「所属機関コード」を入力してください。廃止や統合等でコード表に記載されていない機関については、国内の機関は「9999」、海外の機関は「999999」を入力し、具体的な機関名をテキストで入力してください。</p>
	部局名	<p>(1) 「国内の機関」を選択した場合で、大学(放送大学含む)・大学共同利用機関の場合は「一覧」ボタンをクリックし「部局コード表」を参照して「部局コード」を入力してください。該当するものが無い場合は「9999」を入力し、具体的な部局名をテキストで入力してください。</p> <p>また、大学・大学共同利用機関以外の場合は、空欄としてください。</p> <p>(2) 「海外の機関」を選択した場合には、以下のとおりとします。</p> <p>「一覧」ボタンをクリックし、「部局コード表」を参照して、対応する和名の部局名が記載されている場合には、「部局コード」を入力してください。部局コード表に記載されていない部局の場合には、「9999」と入力し、具体的な部局名の和名をテキストで入力してください。</p>
	部局種別	<p>(1) 「国内の機関」を選択した場合は、大学・大学共同利用機関の場合のみ入力してください。大学の場合は、「学部」「学系」「研究科」「附置研等」「研究院」のうち該当するものをプルダウンメニューで選択してください。該当するものがない場合は、「その他」を選択し、具体的な部局種別をテキストで入力してください。</p> <p>大学内の研究所や大学共同利用機関の場合は、「附置研等」を選択してください。</p> <p>(2) 「海外の機関」を選択した場合には、以下のとおりとします。</p> <p>大学の場合は、該当するものがプルダウンメニューにある場合にはそれを選択し、ない場合には「その他」を選択し、具体的な部局種別をテキストで入力してください。</p> <p>大学以外の場合には、「附置研等」を選択してください。</p>
	職名	<p>「一覧」ボタンをクリックし「職名コード表」を参照して、「職名コード」を入力してください。該当するものが無い場合は「999」を入力し、具体的な職名をテキストで入力してください。</p>
⑳	研究活動における主な使用言語	<ul style="list-style-type: none"> 「①審査領域」で数物系科学・化学・工学・生物学・農学・医歯薬学のうち、いずれかの領域を選択した者^{*1}は英語について必ず記入してください。英語以外の言語については任意とし、必ずしも記入しなくて構いません。 「①審査領域」で人文学・社会科学のいずれかの領域を選択した者^{*2}は、派遣国での研

⑨	研究活動における主な使用言語	<p>究活動（論文執筆、学会発表、調査、研究討論等）において主に使用する言語を記入してください。（複数回答可）</p> <p>※1『総合領域』・『複合新領域』を選択し、かつ「審査希望領域」として、数物系科学・化学・工学・生物学・農学・医歯薬学のいずれかを選択した者を含みます。</p> <p>※2『総合領域』・『複合新領域』を選択し、かつ「審査希望領域」として、人文学・社会科学のいずれかを選択した者を含みます。</p>																									
⑩	語学検定試験結果	<p>(1) 「研究活動における主な使用言語」で記入した言語について、過去に語学能力検定試験を受けた者は、試験コード・級/スコア・取得年月を入力してください。 ※同じ言語について複数の試験の結果を入力することも可能です。 ※複数の言語の試験結果を記入する場合には、「研究活動における主な使用言語」で記入した言語の順に入力してください。</p> <p>(2) 「一覧」ボタンをクリックし、「語学検定試験コード表」を参照して、「試験コード」を入力してください。該当するものが無い場合は、「9999」を入力し、「言語」および「試験名称」をテキストで入力してください。</p> <p>(3) 3種類以上の試験を受けている場合は、成績の良い試験結果を申請者自ら選択の上、記入してください。</p> <p>(4) スコアに有効期限がある試験（例：TOEFL）について、有効期限が過ぎた場合も含めて記入して構いません。</p> <p>(5) 入力した試験については、級/スコアの証明書（コピー可）を添付してください。証明書を添付できないものについては入力不可です。</p>																									
⑪	自己評価	<p>・「研究活動における主な使用言語」で記入した言語のうち、前項の⑩語学能力検定試験結果を記入していない言語についてのみ記入してください。</p> <p>・下記「自己評価の基準」に添って、優・良・可・不可のいずれかを記入してください。</p> <p>自己評価の基準</p> <table border="1" data-bbox="384 1084 1485 1621"> <thead> <tr> <th></th> <th>読解力</th> <th>作文力</th> <th>ヒアリング力</th> <th>会話力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>論文・新聞等の内容をほぼ完全に読める。</td> <td>論文・手紙等をほぼ完璧に書ける。</td> <td>学会講演・映画・ニュース等の内容をほぼ完全に聞き取れる。</td> <td>学会講演・質疑応答、ネイティブスピーカーとの交渉・討論がほぼ完全にできる。</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>自分の専門の論文をほぼ完全に読める。</td> <td>論文・手紙等を書ける。ただし、多少の校閲は必要とする。</td> <td>学会講演をほぼ完全に聞き取れる。</td> <td>学会講演はほぼ完全にできる。質疑応答、ネイティブスピーカーとの交渉・討論は半分程度にできる。</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>自分の専門の論文を、辞書を引きながらであれば読める。</td> <td>論文・手紙等を、辞書を引きながらであれば書ける。</td> <td>学会講演を50%程度であれば聞き取れる。</td> <td>学会講演はメモを用いればできる。質疑応答、ネイティブスピーカーとの交渉・討論はスムーズではないが意志の疎通は可能。</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>辞書を用いても文章を読むのが困難。</td> <td>辞書を用いても文章を書くのが困難。</td> <td>学会講演を理解するのが困難。</td> <td>相手の理解が得られるよう会話するのが困難。</td> </tr> </tbody> </table>		読解力	作文力	ヒアリング力	会話力	優	論文・新聞等の内容をほぼ完全に読める。	論文・手紙等をほぼ完璧に書ける。	学会講演・映画・ニュース等の内容をほぼ完全に聞き取れる。	学会講演・質疑応答、ネイティブスピーカーとの交渉・討論がほぼ完全にできる。	良	自分の専門の論文をほぼ完全に読める。	論文・手紙等を書ける。ただし、多少の校閲は必要とする。	学会講演をほぼ完全に聞き取れる。	学会講演はほぼ完全にできる。質疑応答、ネイティブスピーカーとの交渉・討論は半分程度にできる。	可	自分の専門の論文を、辞書を引きながらであれば読める。	論文・手紙等を、辞書を引きながらであれば書ける。	学会講演を50%程度であれば聞き取れる。	学会講演はメモを用いればできる。質疑応答、ネイティブスピーカーとの交渉・討論はスムーズではないが意志の疎通は可能。	不可	辞書を用いても文章を読むのが困難。	辞書を用いても文章を書くのが困難。	学会講演を理解するのが困難。	相手の理解が得られるよう会話するのが困難。
	読解力	作文力	ヒアリング力	会話力																							
優	論文・新聞等の内容をほぼ完全に読める。	論文・手紙等をほぼ完璧に書ける。	学会講演・映画・ニュース等の内容をほぼ完全に聞き取れる。	学会講演・質疑応答、ネイティブスピーカーとの交渉・討論がほぼ完全にできる。																							
良	自分の専門の論文をほぼ完全に読める。	論文・手紙等を書ける。ただし、多少の校閲は必要とする。	学会講演をほぼ完全に聞き取れる。	学会講演はほぼ完全にできる。質疑応答、ネイティブスピーカーとの交渉・討論は半分程度にできる。																							
可	自分の専門の論文を、辞書を引きながらであれば読める。	論文・手紙等を、辞書を引きながらであれば書ける。	学会講演を50%程度であれば聞き取れる。	学会講演はメモを用いればできる。質疑応答、ネイティブスピーカーとの交渉・討論はスムーズではないが意志の疎通は可能。																							
不可	辞書を用いても文章を読むのが困難。	辞書を用いても文章を書くのが困難。	学会講演を理解するのが困難。	相手の理解が得られるよう会話するのが困難。																							
⑫	海外における研究・留学歴	<p>・在外研究、大学以降の外国留学等について最大3件まで入力してください。3件以上ある場合は、渡航期間の長い主要なものを優先。</p> <p>・「訪問先」欄には国や機関名等を入力してください。</p> <p>・「目的」欄は、まずプルダウンメニューから渡航目的の概要を選択し、次にその詳細についてテキストで具体的に入力してください。</p> <p>・「期間」欄について、現在渡航中のものについては、予定している渡航終了日を入力してください。</p>																									
⑬	海外特別研究員制度における支援の必要性	<p>・過去に海外での研究経験（国際会議、学会発表等を除く。）がある場合、又は、派遣を開始する予定日より前に、既に海外の研究機関において研究を行っている場合は、本制度において支援を受けなければならない理由について説明をしてください。</p> <p>・改行は5回まで可能。1600バイト以内（改行は2バイトとして計算）。</p>																									

【参考】 5年一貫制の博士課程（平成23年4月1日現在）。

このほかにも、申請受付時まで追加となっている場合があるので、各自大学に確認してください。

<国立大学>

筑波大学大学院	人文科学研究科（哲学・思想専攻、歴史・人類学専攻、文芸・言語専攻）、生命環境科学研究科（生命共存科学専攻）、
京都大学大学院	アジア・アフリカ地域研究研究科（東南アジア地域研究専攻、アフリカ地域研究専攻、グローバル地域研究専攻）
大阪大学大学院	生命機能研究科（生命機能専攻）
岡山大学大学院	自然科学研究科（地域惑星物質科学専攻）
九州大学大学院	システム生命科学府（システム生命科学専攻）
長崎大学大学院	工学研究科（グリーンシステム創成科学専攻）、水産・環境科学総合研究科（海洋フィールド生命科学専攻）
総合研究大学院大学大学院	物理科学研究科（構造分子科学専攻、機能分子科学専攻、天文科学専攻、核融合科学専攻、宇宙科学専攻）、高エネルギー加速器科学研究科（加速器科学専攻、物質構造科学専攻、素粒子原子核専攻）、複合科学研究科（統計科学専攻、極域科学専攻、情報学専攻）、生命科学研究科（遺伝学専攻、基礎生物学専攻、生理科学専攻）、先導科学研究科（生命共生体進化学専攻）

<私立大学>

青山学院大学大学院	総合文化政策学研究科（総合文化政策学専攻）、国際マネジメント研究科（国際マネジメントサイエンス専攻）
国際仏教学大学院大学大学院	仏教学研究科（仏教学専攻）
同志社大学大学院	総合政策科学研究科（技術・革新的経営専攻）
立命館大学大学院	先端総合学術研究科（先端総合学術専攻）
東亜大学大学院	総合学術研究科（医療科学専攻、人間科学専攻、デザイン専攻、臨床心理学専攻）

IV 「申請内容ファイル」の作成について

(1) 下記の点に注意のうえ、作成してください。

- ① 10ポイント以上の文字で記入してください。
- ② 「(英文)」と指定された項目以外は日本語で記入してください。外国人の申請者に限り、申請書5～12ページについては英語でも構いません。
- ③ 手書きで記入する場合は、黒インク又は黒ボールペンで丁寧に記入してください。
- ④ 様式中の各項目について枠の拡大縮小等の変更、指定されたもの以外の項目を付け加えること、及び記入しない項目の省略等、様式の加工・変更はできません。
- ⑤ 所定の様式以外に新たに用紙を加えることはできません。本会が指定した書類以外も添付できません。これらが守られていなければ不備の申請書とみなします。内容に矛盾のあるもの、記入漏れなどについても不備とみなします。

注：上記のルールに従わなかった場合には、審査にあたり不利益を生じることがあります。

(2) 本会ホームページに募集要項・「申請内容ファイル」（申請書のP.5以降）の電子ファイルを公開しているので、活用してください。

本会「海外特別研究員」ホームページ (<http://www.jsps.go.jp/j-ab/index.html>)
→「申請手続き」→「募集要項」→「申請書」

(3) 申請書P.12が空欄となる場合も、様式の枠はそのまま残して提出してください。

「4.研究業績」欄の記入例

下記はあくまでも一例であり、体裁は申請書に記載されている注記を踏まえた上で、適宜調整してください。

<p>(1) 学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文、著書 （査読有り）</p> <p>1) <u>学振太郎</u>¹、半蔵門花子²、・・・ 「(題名)」、『(掲載誌名)』、〇〇出版、〇号、pp57-62、2003</p> <p>2) 麴町治郎³、<u>学振太郎</u>¹、・・・ 「(題名)」、『(掲載誌名)』、〇〇出版、〇号、pp33-39、2009</p> <p>他 5 報</p> <p>注：著者の所属・職（論文発表時）</p> <p>1 〇〇大学〇〇研究科大学院生、2 〇〇大学〇〇学部助教、3 〇〇大学〇〇研究科教授、・・・</p>	<p>書ききれない場合で省略する場合は、項目別に省略した数を記載してください。</p>
<p>(2) 学術雑誌等又は商業誌における解説、総説</p> <p>1) <u>学振太郎</u>・・・ 「(題名)」、『(掲載誌名)』、〇〇出版、〇号、pp57-62、2006</p>	<p>著者の所属及び職名等を記載してください。</p>
<p>(3) 国際会議における発表 （口頭発表 査読有り）</p> <p>1) 〇<u>Gakushin T</u>, Hanzoumon H,・・・ 「(題名)」、『(学会名)』、BB-11、Los Angeles, USA、(June 2005)</p> <p>他 2 件</p>	
<p>(4) 国内学会・シンポジウム等における発表 （口頭発表 査読無し）</p> <p>1) 〇<u>学振太郎</u>、半蔵門花子、・・・ 「(題名)」、『(学会名)』、No.200、仙台、2004年9月</p>	<p>パンフレット等に掲載された際に付された番号があれば記載してください。</p>
<p>(5) 特許 （公開中）</p> <p>1) (特許の番号)号、「(名称)」、<u>麴町治郎</u>、<u>学振太郎</u>、2004年4月</p>	

(6) その他 (受賞歴等)

1) 学振太郎・・・「(賞の名称)」、2004年4月

既に「発表(印刷)済」のもの、証明書類の添付が必要な「発表(印刷)前」のものに分けて記載してください。

【発表(印刷)前】

(1) 学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に採録決定されたもの
(査読有り)

1) 麴町治郎¹、学振太郎²、・・・ 「(題名)」、『(掲載誌名)』、〇〇出版、〇号、pp33-39、2012

▼(証明書①添付)

注:著者の所属・職

¹ 〇〇大学〇〇学部教授、² 〇〇大学〇〇研究科大学院生、・・・

証明書類は電子メール等の写しでも構いません。論文等は添付しないでください。証明書類の右上には「証明書①」と記載してください。

(4) 国内学会・シンポジウム等における発表の申し込みが受理されたもの

1) 〇学振太郎、半蔵門花子、・・・ 「(題名)」、『(学会名)』、No.201、東京、2012年7月(証明書②添付)

V 申請書の添付書類について

※ 下記の書類を、申請書P.12の後に記載の順に添付してください。

(1) 「受入意思確認書 (Letter of Intent to Accept Prospective Fellow by Host Researcher)」【全員】
..... 原本1部、写し6部

受入意思確認書は、海外での受入研究者の受入に関する意思を確認する書類です。所定の書式を使用し、海外での受入研究者に作成を依頼してください。作成にあたっては、記入例を参照し申請書情報と一致すべき内容については申請者本人が記入の上、海外の受入研究者に日付とサインおよび特記事項の記入を依頼してください。原本及び写し6部(A4判又はレターサイズ、片面印刷)を作成し、申請書P.12の後に添付してください。(原本には原本を、写し6部には写しを添付してください。)

サインについては直筆に限らず、直筆サインをした本書類をPDF化したもの、電子的なサインなどでも構いません。(なお、採用内定となった後、改めて受入研究者の受入承諾書(受入を正式に承諾している旨の証明書)を求めることとなりますが、その際のサインは直筆のみ可です。)

受入意思確認書は本会所定の書式を用いてください。下記からダウンロードすることができます。

本会「海外特別研究員」ホームページ (<http://www.jsps.go.jp/j-ab/index.html>)
→「申請手続き」→「募集要項」→「申請書」

(2) 「海外における受入研究者との研究についての打ち合わせ状況を示す主要な往復文書」【全員】
..... 原本1部、写し6部

海外特別研究員に採用となった場合の受入や研究計画について、海外における受入研究者と相互に意思確認がなされているやりとりを示すものを添付してください。形式については、電子メールの写し等でも構いませんが、打ち合わせ状況のわかる主要なもののみ提出してください。長文の場合には該当箇所に下線してください。(上記内容を含む文書に、申請者と海外における受入研究者の両者の署名をしたものでも可です。)

海外におけるポスドク等で、すでに海外における受入研究者のもとで研究を開始している場合も、必ず提出してください。

英語以外の言語によるものには、日本語訳も添付してください。

(3) 「語学試験結果の証明書」【該当者のみ】 原本 1 部、写し 6 部

申請書 P.4 「語学検定試験結果」欄に記入した場合のみ、試験の級/スコアの証明書（コピー可）を申請書に添付してください。証明書を添付できない場合は、申請書に記載することはできません。提出した証明書は申請者へ返却しないので、その旨ご留意ください。

(4) 「外国人登録済証明書」【該当者のみ】 1 部

日本国籍以外の者は、日本に永住を許可されていることを証明する外国人登録済証明書又は外国人登録原票記載事項証明書等を添付してください（申請書原本にのみ添付）。

(5) 「臨床研修の期間を証明する書類」【該当者のみ】 1 部

医師法、歯科医師法又は獣医師法に定められた臨床研修を修了した者のうち医学、歯学又は獣医学を履修する 4 年制の博士課程在学者又は修了者で、採用年度の 4 月 1 日現在 35 歳以上 37 歳未満である申請者は、当該臨床研修を修了した機関等から発行された証明書類を添付してください（申請書原本にのみ添付）。

当該証明書類は、「医師法、歯科医師法又は獣医師法 16 条の 2 に基づく臨床研修であること」、「当該臨床研修を修了したこと」及び「臨床研修の期間」が明記されたものとします。臨床研修病院から交付された「臨床研修修了証」の写しをもって代えても構いません。

臨床研修を行ったが、修了まで至っていない場合は該当しません。研修期間等必要事項については、下表を参照してください。

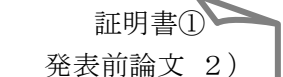
根拠となる法律	採用開始日 現在の年齢	研修期間等の必要事項
医師法	36 歳以上 37 歳未満	平成 12 年改正医師法に基づく 2 年以上の臨床研修（平成 16 年 4 月 1 日の施行日以降に行われた初期臨床研修）を修了した者
	35 歳以上 36 歳未満	平成 12 年改正前の医師法に基づく 1 年以上の臨床研修を修了した者、又は、平成 12 年改正医師法に基づく 2 年以上の臨床研修（平成 16 年 4 月 1 日の施行日以降に行われた初期臨床研修）を修了した者
歯科医師法	35 歳以上 36 歳未満	1 年以上の臨床研修を修了した者【平成 18 年 3 月 31 日以前より行われた平成 12 年改正前の歯科医師法の努力義務規定に基づく研修を含む】
獣医師法	35 歳以上 36 歳未満	6 月以上の臨床研修を修了した者【獣医師法に基づく研修】

なお、採用年度の 4 月 1 日現在 35 歳未満である者は、当該臨床研修を修了していても、当該証明書類は添付不要です。

(6) 「論文等の採録決定を証明する書類」【該当者のみ】 原本 1 部、写し 6 部

- ・「申請内容ファイル」の「4. 研究業績」欄の「(1) 学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文、著書」で、まだ印刷されていないが、採録決定(アクセプト)の通知を受けているものについては、そのことを証明する書類を添付してください。「4. 研究業績」及び証明書類に「証明書①」等証明書類の通し番号を記載し、どの研究業績の内容か分かるようにしてください。まだ印刷されていない論文で、当該証明書類を添付できないものについては、同欄に記載できません。
- ・証明書類は申請書提出時に添付できるものに限り、申請書提出後、改めて追加することはできません。
- ・証明書類は原則として原本を添付してください。
ただし、当該出版社等が採録決定について電子メールや Web 上による通知しか行っていない場合は、それを印刷したもので代えても構いません。その際、論文採録決定の証明に関する記述と、論文本体が一体となっている場合など、全体の枚数が多くなっているものについては、全てをそのまま添付するのではなく、「論文タイトル」「執筆者」「当該論文を採録決定している旨の記載」および出版社や編集者など送信元の情報（署名等）が含まれる部分のページを抜粋し、両面コピー 1～2 枚程度にまとめて添付してください。その際、「採録証明に関する部分のみ抜粋」等の説明を余白に記入してください。内容のみを抜粋して Word 等にコピー・貼付したものは不可です。電子メール等を直接印刷し、ページを抜粋して添付してください。

- ・添付する証明書類への付番例。右上にいずれの業績に関するものかを明記してください。

例. 

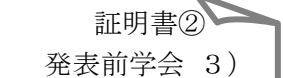
証明書① ← 業績欄で記入した証明書類の通し番号

発表前論文 2) ← 業績欄で記入した通し番号

- ・印刷済、オンライン出版済のものについては、採録決定を証明する書類を添付する必要はありません。
- ・論文の抜き刷りは添付しないでください。

(7) 「国際会議等の発表申し込みの受理を証明する書類」【該当者のみ】……………原本1部、写し6部

- ・「申請内容ファイル」の「4. 研究業績」欄の「(3) 国際会議における発表」または「(4) 国内学会・シンポジウム等における発表」で、まだ発表されていないが、発表申し込みが受理されたものについては、そのことを証明する書類を添付してください。「4. 研究業績」及び証明書類に「証明書①」等証明書類の通し番号を記載し、どの研究業績の内容か分かるようにしてください。まだ発表予定で、当該証明書類を添付できないものについては、同欄に記載できません。
- ・証明書類は申請書提出時に添付できるものに限り、申請書提出後、改めて追加することはできません。
- ・添付する証明書類への付番例。右上にいずれの業績に関するものかを明記してください。

例. 

証明書② ← 業績欄で記入した証明書類の通し番号

発表前学会 3) ← 業績欄で記入した通し番号

- ・証明書類は原則として原本を添付してください。ただし、当該会議等が受理について電子メールや Web 上による通知しか行っていない場合は、それを印刷したもので代えても構いません。(Web 上のプログラムを印刷したものでも可。)枚数が多い場合は、(2)「論文等の採録決定を証明する書類」での取扱いと同様とし、「題名」「会議・学会名」「論文等の番号」「場所、年・月」および主催者などの送信元の情報(署名等)が含まれるページを抜粋し、両面コピー1～2枚程度にまとめて添付してください。
- ・発表済のものについては、発表申し込みの受理を証明する書類を添付する必要はありません。

(8) 「海外の受入研究機関に関する説明書・パンフレット等」【該当者のみ】……………原本1部

海外での受入研究機関が大学又は国公立の研究機関以外の場合には、非営利である旨を証明できるその機関に関する説明書・パンフレット・HPを印刷したもの等を添付してください。添付の際には、証明されている箇所にマーカー等で印を付けてください。複数ページあるものについては、合わせて該当箇所のページに付箋をしてください。

(9) 「評価書」【全員】

- ・評価書は、評価者が原本及びコピー6部(A4判またはレターサイズ、両面印刷)を作成し、これらを併せて封筒(角2)に入れ、評価者ご自身で厳封してください。封筒の表には、申請者登録名と評価者氏名を表記してください。(封筒の表記は申請者が行っても構いません。)
- ・評価者は、「海外における受入研究者」も含めて、本人の研究内容に精通している研究者1名とし、必ずしも「現在の受入研究者」である必要はありません。また、評価書には所属の記入欄がありますが、評価者は退官された方や現在所属がない研究者の方でも構いません。
- ・評価者は必ず氏名を記入の上、押印又は署名してください。

注：評価者に評価書の作成を依頼する際には、当該年度の所定の書式であるか十分確認してください。また、研究課題名は申請書記載のものであることも十分確認してください。

評価書は本会所定の書式を用いてください。下記からダウンロードすることができます。

本会「海外特別研究員」ホームページ (<http://www.jsps.go.jp/j-ab/index.html>)
→「申請手続き」→「募集要項」→「申請書」

なお、評価者が外国人のため、英語で記述する必要がある場合には、上記のホームページから英語の書式をダウンロードして用いることができます。この場合、用紙はレターサイズでも構いません。

- ・日本語で記述する場合には日本語の書式を、海外の研究者により英語で記述する場合には英語の書式を用いてください。

VI 申請書の提出方法について

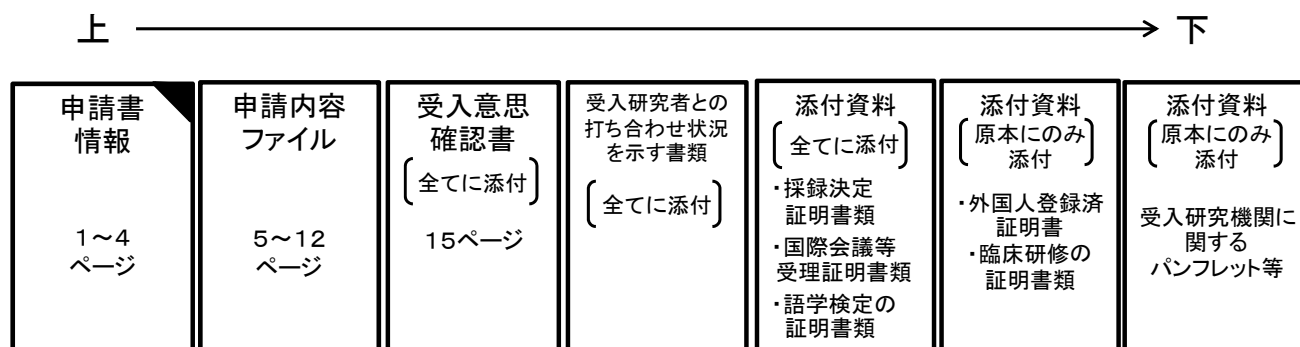
(1)申請書の組み方

申請書を組む際には、次ページの図を参照し、下記①～⑩の順に①が一番上になるように重ね、左上をホチキスでとめたものを1部としてください。なお、添付書類については該当するもののみ添付してください。受入意思確認書および各添付書類の詳細については、本作成要領P. 14以降をご確認ください。

- | | |
|--|----------|
| ① 申請書情報（電子申請より作成） | 1～4 ページ |
| ② 申請内容ファイル（Word 等で作成） | 5～12 ページ |
| ③ 受入意思確認書（所定の様式に、海外での受入研究者が記入したもの） | |
| ④ 海外における受入研究者との研究についての打ち合わせ状況を示す主要な往復文書 | |
| ⑤ 採録決定を証明する書類（複数の場合は、業績欄に記載した順に添付。） | |
| ⑥ 国際会議等の発表申し込みの受理を証明する書類（複数の場合は、業績欄に記載した順に添付。） | |
| ⑦ 語学試験結果の証明書 | |
| ⑧ 外国人登録済証明書 | |
| ⑨ 臨床研修の期間を証明する書類 | |
| ⑩ 海外の受入研究機関に関する説明書・パンフレット等 | |

<申請書の組み方>

下記の順番で重ね、左上をホチキスでとめてください。
 （添付書類については、該当するもののみ、記載の順番で添付。）

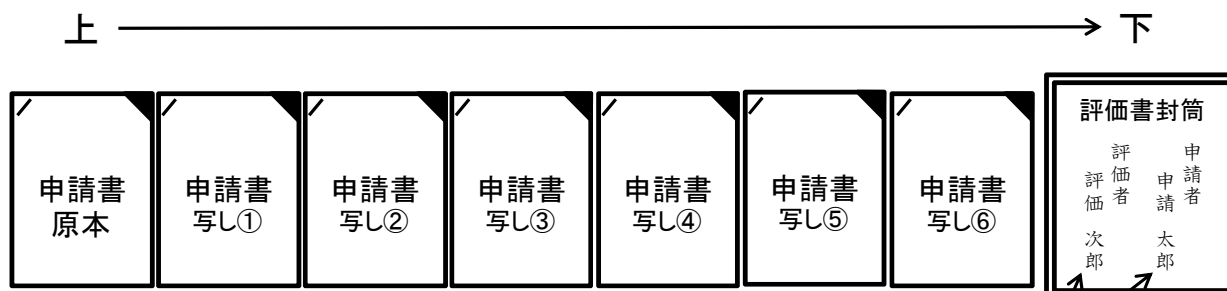


(2)提出時の組み方

申請書を提出する際には、下図を参照し、申請書原本・申請書写し6部・評価書入り封筒の順に重ねて提出してください（下図参照）。なお、評価書入り封筒の表には必ず評価者と申請者の氏名を記入していることを提出前に確認してください（封筒への氏名記入は申請者本人が行っても構いません）。

<提出時の組み方>

下記の順番で重ねて提出してください。



評価書を入れた封筒には、申請者名と評価者名を記入。

(3)本会への提出

<機関申請者>

申請機関に提出してください。本会へ直接提出したものは、受け付けません。

募集要項に記載の申請受付期間は、申請機関長から本会への提出期限です。機関申請者が申請機関長へ提出する期限はそれより前であることが予想されるので、注意してください。

<個人申請者>

本会へ直接提出してください。

募集要項に記載の申請受付期間は、郵送による申請書一式の到着の期限です。電子申請では完了していても、紙媒体での申請書が期限までに到着しない場合には、受け付けません。

また、郵便事情等による申請書類の紛失、遅配等については、本会では責任を負いません。期限までに到着しない場合には受け付けません。受付期間内に到着するよう余裕をもって送付してください。

(海外からの個人申請に限り、受付開始以前に到着した申請書も受け付けます。ただし、一度受け付けた申請書類は、受付開始日前であっても差替はできません。)

注) 個人申請者については、平成24年5月8日(火) 17:00(日本時間)までに、電子申請システムにおいて申請書情報を入力し、「完了」をしてください。期限までに完了していない場合、紙媒体での申請書類の提出もできません。(募集要項10. ③参照)

申請書類提出先

〒102-8472 東京都千代田区一番町8番地

独立行政法人 日本学術振興会 研究者養成課 海外特別研究員募集担当